

KNOW

NEWS
LETTER

NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER NEWS LETTER

2019.8
第101号



公益財団法人
麻薬・覚せい剤乱用防止センター
Drug Abuse Prevention Center



競輪の補助事業

この冊子は、競輪の補助により作成しました。
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>



NEWS LETTER

2019.8・第101号

CONTENTS

随想	
●「薬物情勢の現状と対策について」	
警察庁刑事局組織犯罪対策部薬物銃器対策課長 松林 高樹	1
かいせつ	
●刑務所を出所した薬物依存症者の地域支援に必要なもの ～「Voice Bridges Projects」(「声の架け橋」プロジェクト)	
国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 松本 俊彦	2
●全国にコダマする「ダメ、ゼッタイ。」の合言葉	6
●街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ	39
●平成30年中の薬物情勢について	40
●トピックス 「大麻栽培事犯の実態に関する調査結果」	48
●ご寄付団体及び賛助会員	52

「薬物情勢の現状と対策について」

警察庁刑事局組織犯罪対策部
薬物銃器対策課長

松 林 高 樹

覚醒剤、大麻、危険ドラッグ等の薬物乱用は、乱用者自身の精神や身体をむしばみばかりでなく、その薬理作用による幻覚、妄想等から、凶悪な事件や重大な交通事故を引き起こすなど、社会の安全を脅かします。また、薬物の不正取引は、暴力団等犯罪組織の資金源となることから、治安の根幹を揺るがす重要な問題です。

薬物事犯の検挙人員は、近年横ばいが続く中、平成30年は1万3,862人と前年からわずかに増加しました。30年中の薬物情勢を概観しますと、覚醒剤事犯の検挙人員は9,868人と前年から引き続かずかに減少したものの薬物事犯全体の約7割を占め、押収量も3年連続で1トンを超えており、依然として我が国の薬物対策上の最重要課題となっています。再犯者の構成比率も年々増加して66・1%を占めており、覚醒剤の依存性の強さを裏付けるものとなっています。また、検挙人員のうち半数近くを暴力団構成員等が占めるなど、暴力団の覚醒剤事犯への関与の強さがうかがわれます。

大麻事犯の検挙人員は、平成26年以降増加が続き、30年中は3,578人と過去最多となった前年を大幅に更新しており、大麻事犯検挙人員の増加が薬物事犯検挙人員全体を押し上げています。また、中でも30歳未満の若年層の検挙人員は全体の大半を占めていることから、若年層へのまん延が懸念されており、初犯者の高い構成比率も継続しています。さらに、近年は特に、暴力団構成員等による大量大麻栽培事犯の検挙が見られ、大規模な大麻栽培に暴力団構成員等の関わるものが多くを占めるなど、組織的な大麻栽培が暴力団の資金源となっていることがう

かがわれます。

危険ドラッグ事犯の検挙人員は、平成30年中は396人であり、28年以降減少を続けていることから、広報啓発活動や関係機関との連携した取締りの成果が現れているところです。

平成30年中の薬物密輸入事犯の検挙件数は324件で前年から増加しています。覚醒剤密輸入押収量は前年より減少したものの、暴力団や来日外国人による大量密輸入事件を相次いで検挙したほか、航空機を利用した密輸入事件も多数検挙したところがあります。

こうした厳しい情勢の中、薬物対策については、平成30年8月、政府の薬物乱用対策推進会議で策定された「第五次薬物乱用防止五か年戦略」に基づき関係省庁が緊密に連携し、①「青少年を中心とした薬物乱用未然防止」、②「社会復帰支援等による再乱用防止」、③「取締りの徹底等による薬物の流通阻止」、④「水際対策による薬物の密輸入阻止」、⑤「国際連携・協力を通じた薬物乱用防止」の5つの目標を薬物対策の重要な柱と位置付け、警察においても、薬物の「供給の遮断」と「需要の根絶」の両面から、目標達成に向けた総合的な対策を推進しています。

薬物の供給を遮断する取組としては、我が国で乱用されている薬物の大半が海外から流入していることから、税関、海上保安庁等の国内関係機関との合同訓練や連絡会議を通じて連携を強化するとともに、外国の取締機関とは、相互に情報交換等を行うなどして関係強化を図るなど、水際での薬物流入を阻止するための対策の強化に努めています。また、

あらゆる捜査手法を活用し、薬物の密輸・密売等に関与する薬物犯罪組織の実態解明を図るとともに、これら組織の中核に切り込み、重刑の獲得による長期社会隔離、薬物犯罪による不法収益の没収を実現するため、麻薬特例法を積極的に適用するなど、犯罪組織の壊滅に向けた取組を推進しています。

このほか、インターネットを利用した薬物密売事犯対策として、サイバーパトロールやインターネット利用者等からの違法情報に関する通報を受理するインターネット・ホットラインセンター（IHCC）からの通報等により薬物密売情報の収集を強化しています。

薬物の需要を根絶するための取組については、社会全体に薬物を拒絶する規範意識が堅持されるように、薬物乱用者の徹底した検挙を推進するとともに、薬物の危険性・有害性について正しい知識の周知を図るための広報啓発活動を推進しています。

特に、広報啓発活動については、警察だけではなく、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターを始めとする民間団体やボランティアの皆様方と連携しつつ、官民一体となった効果的な活動を展開していきたいと考えています。

警察としましては、引き続き社会情勢の変化を踏まえ、「供給の遮断」及び「需要の根絶」の両面から、薬物乱用のない社会の実現に向けた施策を強力に推進してまいりますので、今後とも御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

～「Voice Bridges Projects」(「声の架け橋」プロジェクト)

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
薬物依存研究部

松本 俊彦

はじめに

2016年6月に「刑の一部執行猶予制度」(以下、一部執行猶予)が施行されました。私自身は、この制度は重要な一歩前進であると考えています。自身の臨床経験を振り返ると、覚せい剤依存症を抱える人が最も覚せい剤を再使用しやすいのは、何といっても刑務所出所直後です。自由を制限され、窮屈な環境から一気に脱出したときの解放感、きわめて強力な薬物欲求のトリガーとなります。その意味で、刑務所を出ていきなり完全に自由になってしまうのではなく、社会のなかで回復プログラムを強制的に受けざるをえないというこの制度は、明らかに刑務所出所直後の薬物再使用のリスクを低減すると思います。

もちろん、正直いえば、もっと実刑部分を短くしてほしいという思いはあります。そうしないと、長い保護観察期間が追加された分、かえって司法機関の監督下に置かれる期間が長くなり、かえって薬物事犯者に対する厳罰化が進んだようにも感じられます。とはいえ、さすがに一気に実刑部分を大胆に短縮するような制度では、国民全体からの反発があるでしょう。ですから、まずは少しずつ施設内の処遇から社会内の処遇へとシフトしていく第一歩と考えれば、一部執行猶予はわが国の刑事司法制度における重要な前進ではあります。

本稿では、刑の一部執行猶予制度以降における薬物依存症者の地域支援体制を構築するために、現在、私たちが取り組んで活動について紹介させ

ていただこうと思います。

「刑の一部執行猶予制度」の課題

刑の一部執行猶予制度が薬物関連犯罪に対する司法制度として重要な第一歩であるのは確かですが、いくつかのかなり重要な課題があることは否めません。

そのなかでも、保護観察から地域の社会資源との連携をいかにして強化するかという問題は、きわめて重要です。というのも、刑務所出所直後とともに薬物の再使用が多いのは、保護観察終了直後からです。つまり、物理的に薬物から隔離しても、あるいは、法的な縛りという心理的プレッシャーで行動を抑止しても、それを永遠に続けることはできず、いつかはそれらを解除する必要がありますが、皮肉にもそのときが一番危ないというわけです。

それでは、どうしたらよいでしょうか。

薬物依存症は、地域における継続的な支援が必要な慢性疾患です。したがって、保護観察期間が終了したら、今度は、地域で医療機関や精神保健福祉センター、あるいは民間回復施設や自助グループといった、任意にもとづく社会資源につながればよいのです。

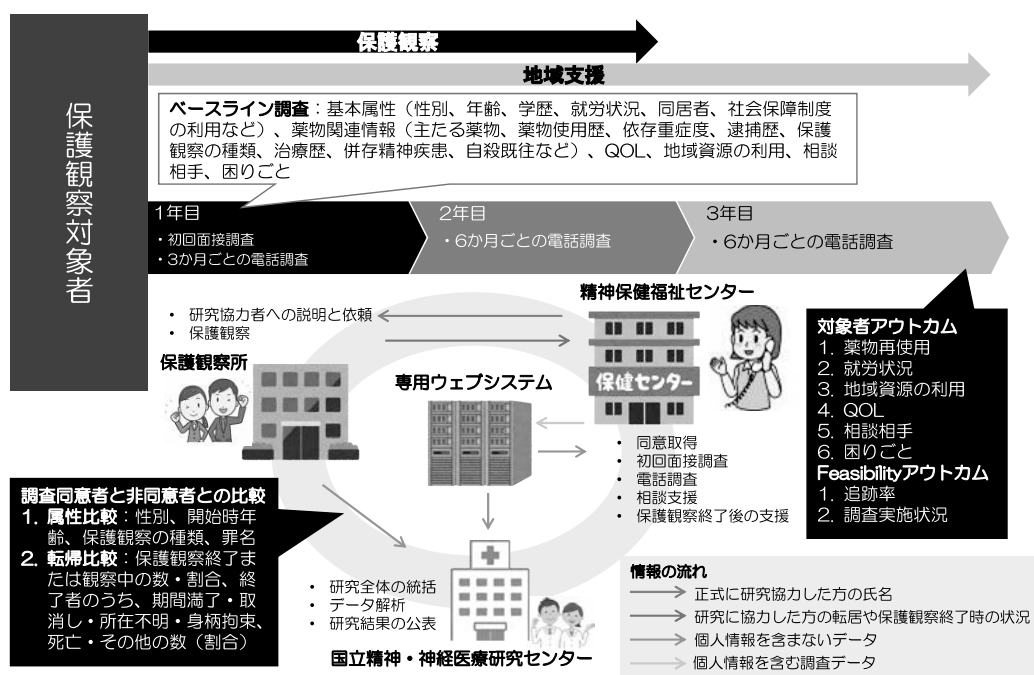
しかし、これが容易ではないのです。考えてもみてください。たとえば、2年間、刑務所で回復プログラムを受け、さらに2年間、保護観察所でも回復プログラムを受け、4年間、自由を制限された環境で回復プログラムに身を捧げた後に、「さ

あ、明日からは病院(あるいは、精神保健福祉センターやダルク)で回復プログラムを受けましょう」といわれて、素直に「はい、わかりました」という人がどれだけいるでしょうか。保護観察期間中に何度も薬物を再使用していた人ならば、「冗談じゃない」と思うのが通常です。

したがって、常識的に考えれば、保護観察を終了した人の多くは、地域の社会資源につながらないまま、合計4年間プログラムを受けてきたことです。つまり、自己信頼をつけて、トリガーだらけの生活に飛び込んでいくことになります。もう定期的な保護観察所に出頭して尿検査を受ける必要はありません。そして、そのような状況のなかで薬物を再使用すれば、逮捕前と同様、依然として医療機関や精神保健福祉センター、あるいは自助グループや民間回復施設も利用したことのないまま、一人で薬物のことを悩むこととなるわけです。「ヤバイな、このままじゃ同じことのくりかえしだな」と危機感を覚えていても、行つたところのない新しい場所に行くのは億劫かつ不安なものです。結局、支援を求めることを迷い、躊躇しているうちに再び逮捕されてしまうのではないのでしょうか。

要するに、刑の一部執行猶予制度という、せっかくの意欲的な司法制度も、単に刑務所への出戻りまでの迂回路にすぎなくなってしまう可能性があります。それでは、近年、深刻な問題となっている刑務所の過剰収容問題は一向に解決しません。そればかりか、もしもこの制度が失敗に終われば、「社会内処遇などわが国では夢のまた夢」

刑務所を出所した薬物依存症者の地域支援に必要なもの



「おせっかい電話」で薬物依存症者の孤立を防ぐ

現在私たちは、厚生労働科学研究の一環として

という世論が広まり、「ヤク中ではできるだけ長く刑務所に閉じ込めておこう」という、前時代的な処遇への揺り戻しが出てきかねない気がします。

図1 Voice Bridges Projectの研究デザイン

ある挑戦をしています。それは、形式上はあくまでも薬物問題を抱えた保護観察対象者のコホート研究の形をとりながら、その実、保護観察から地域の社会資源へのつながりを高めるシステムの構築です（図1）。

具体的には、薬物関連犯罪による保護観察対象者に対し、保護観察開始からおよそ3年のあいだ、精神保健福祉センターから定期的に電話でコンタクトをとり、コホート研究に必要な情報収集をするとともに、対象者にニーズがあれば様々な相談や情報提供を行うというものです。当然、必要に応じて医療機関、あるいは民間回復施設や自助グループを紹介したり、精神保健福祉センターで実施している回復プログラムへの参加を促したりもします。また、たとえ対象者が薬物使用を告白した場合でも守秘義務を優先し、その情報を保護観察所に伝えずに、治療や回復支援の方向で一緒に考える、というものです。

なお、精神保健福祉センターからの定期的なコンタクトをする期間を3年と定めたのは、現状では「一部執行猶予判決」を受けた者の保護観察期間としては2年が多いからです。つまり、保護観察終了からさらに1年間地域側からのコンタクトがあれば、保護観察から地域支援へのつながりが多少とも担保されると考えたわけです。

この精神保健福祉センターによる積極的支援は、2017年3月より東京都多摩地域、川崎市、神奈川県東部（政令指定都市をのぞいた地域）、福岡市の四つの地域で開始されました。以後、少しずつ実施エリアを拡大し、2

019年7月現在、栃木県、東京都、政令指定都市を含む神奈川県全域、大阪府の府域と堺市、三重県、広島県、政令指定都市を含む福岡県全域、鹿児島県と、全国69箇所ある精神保健福祉センターのうち17箇所がプロジェクトに参加しています。

「Voice Bridges Projects」から見えてきたこと

私たちは、この、保護観察対象者のコホート研究と連動した「おせっかい電話」プロジェクトを、「Voice Bridges Project（声の架け橋）プロジェクト」と命名しました（松本、2017）。

プロジェクトを着想するにあたってヒントを与えてくれた研究があります。それは、モットーとポストローム（2001）の自殺予防に関する有名な研究です。彼らは、自殺未遂などにより救急病院に入院した治療を受けた患者のうち、退院後の精神科通院を拒絶した人たちをランダムに2つのグループに分けました。そして、1つのグループには退院後に何らの連絡もとらずに放置し、もう1つのグループには、年に3、4回、「その後、いかがお過ごしですか。よろしかったら連絡をください」という、ごく短い定型文の手紙を送る、というものです。このようにして退院後の状態を追跡し、退院1年以内に再び自殺を企てた人の割合、さらには、その結果、自殺既遂により死亡した人の割合を比較したわけです。その結果、後者のグループは自殺の再企図率と自殺死亡率の双方に関して有意に低いことがわかったのです。このことは、数ヶ月に1回程度の短い定型文の手紙のようなごくささやかな「おせっかい」でも、何もしないよりはるかに多くの人の命を救う可能性があるということです。

私は、これと同じような発想で、薬物依存症者

の地域支援システムを構築することができないかと考えたわけです。もちろん、そうしたシステムですべての薬物依存症者を救うことはできませんが、地域で孤立し、一人で薬物に思い悩む人は減らせるはず、と。

本プロジェクトは現在進行中のもので、最終的な研究成果が出るのは数年先の話ですが、すでに興味深い中間解析の2つの知見が得られています。1つは、対象者の3割あまりに自殺念慮の生涯経験が、そして2割弱に自殺企図の生涯経験が見られる、ということ（松本、2018）。内閣府や日本財団の調査では、一般国民における自殺念慮の生涯経験は二割前後であり、自殺企図の生涯経験は0・6%程度と報告されています。それ踏まえると、刑務所を出たばかりの保護観察中の人たちは自殺リスクの高い集団であるといえます。その意味では、この人たちは、逮捕以前からすでに孤立しており、もしかすると、今回の刑務所服役でさらに多くのつながりを喪失し、孤立している可能性があります。

もう1つは、このプロジェクトの存在が地域の保護観察対象者の未来を変えるかもしれない、ということです。実は、このプロジェクトへの参加に同意した者は、条件満たす保護観察対象者のわずか2割にすぎません。しかし、それにもかかわらず、同意しなかった8割の未来をも変えている可能性があるので。というのも、平成29年度法務省保護局の統計によれば、この年度における保護観察対象者の仮釈放又は刑の執行猶予取消率は6・7%となっていますが、平成29年時点でプロジェクトに参加していた地域（東京都多摩地区、川崎市、神奈川県、福岡市）に限って見ると、仮釈放又は刑の執行猶予取消率は0・6%と明らかに低い数値を示しているからです（松本、2019）。

本プロジェクトを通じて気づいたことがあります

す。それは、地域でこのプロジェクトが始まると、精神保健福祉センターと保護観察所とのあいだで相互への信頼感とそれぞれの業務への理解と信頼が醸成される、ということです。もしかすると、こうした、支援にかかわる人の「空気」の変化が、地域を変えているのかもしれない。

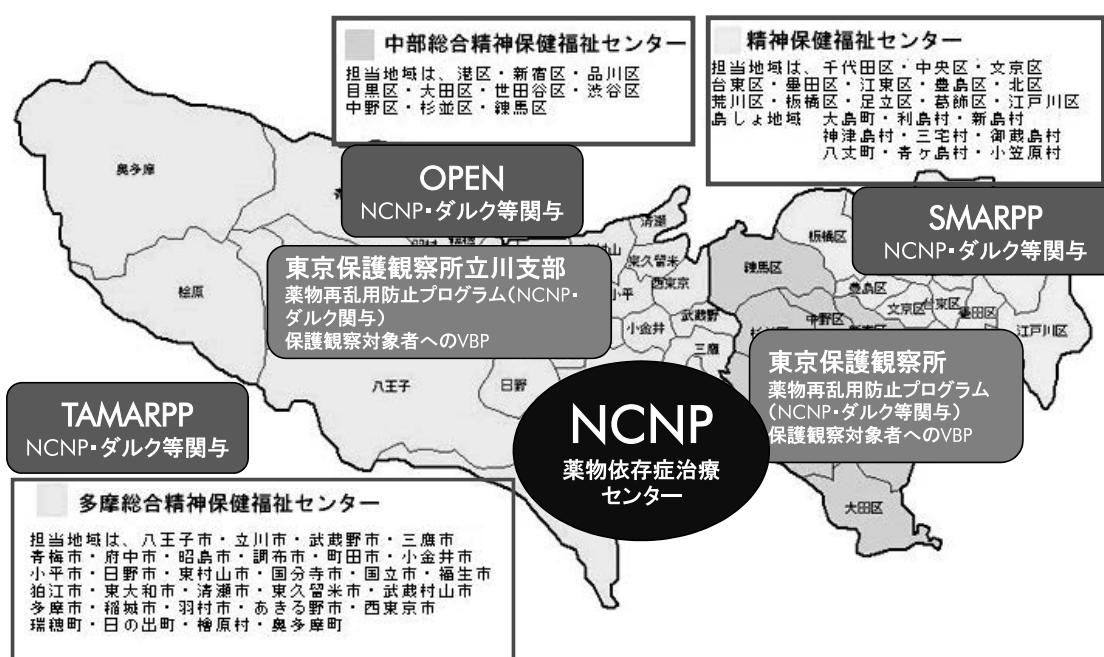


図2 東京「出会い系」システム——薬物依存症地域支援の試み

東京「出会い系」システム——薬物依存症地域支援の試み

現在、各地で実施しているこのプロジェクトですが、私たちの施設がある東京都に関しては、都市型の地域支援モデルを作るべく特に力を入れています（図2）。

東京都には3つの精神保健福祉センターがあります。区部東側を管轄する東京都立精神保健福祉センター（台東区上野）、区部西側を管轄する東京都立中部総合精神保健福祉センター（世田谷区八幡山）、そして多摩地域を管轄する東京都立多摩総合精神保健福祉センターです。そして、そのいずれにもSMARPP（Substance Abuse Monitoring and Reporting Program）ないしはSMARPPをベースにした回復プログラムを提供しています。

3つのいずれの精神保健福祉センターのプログラムも、立ち上げの当初より私たちの研究チームがかかわり、プログラムの実施や運営に関してスパーバイズを行ってきました。その際、特にお願いしてきたのは、必ずグループ療法の副司会者や助言者として地域の民間回復施設のスタッフを採用することでした。そうすることで、精神保健福祉センターのプログラムに参加した人たちが、同時に他の社会資源と出会うチャンスを増やせると考えたわけです。

それから、同じことを保護観察所でも行ってきました。東京都内を管轄する保護観察所は、区部を管轄する東京保護観察所（千代田区霞ヶ関）と、多摩地域を管轄する東京保護観察所立川支部（立川市）の二箇所あり、そのいずれでもSMARPPをベースにした薬物再乱用防

止のための集団処遇プログラムが実施されていますが、これらについても私たちが立ち上げ当初からかわり、スーパバイズをしてきました。そこでもやはりお願いしてきたのは、地域の精神保健福祉センターの職員、ならびに民間回復施設双方のスタッフにも参加してもらうことでした。保護観察所のプログラムに参加する人たちが、そこで地域の様々な社会資源と、顔と顔とをつきあわすかたちで出会えるチャンスを作りたいという考えからです。

こうしたすでに構築されている地域ネットワークに加えて、今回、新たに「声の架け橋」プロジェクトが加わったことになります。決して何かを強制するわけではないですが、どこか一箇所にアクセスすると、他の社会資源や援助者と出会える仕掛けをいくつも重ね、少して支援の網にかかる人を増やすようなシステムを構築しつつあります。興味深い話があります。「声の架け橋」プロジェクトについて、東京保護観察所のある保護観察官から次のようなことを教えてもらいました。

「これまでは薬物依存症を抱える保護観察対象者に、再三、「継続的に支援を受ける必要があるから、地域の精神保健福祉センターにつながりましょう」と提案しても、ほとんど誰もつながらなかった。ところが、この「声の架け橋」プロジェクトを始めてから、「研究に協力いただけませんか」とお願いすると、保護観察対象者の人たちは、「社会貢献できるのですか。ならば、ぜひ協力させてください」といって、精神保健福祉センターにつながるようになりました」

これはとてもうれしい話です。「支援を受ける必要がある」という上から目線の提案よりも、「研究に協力してください」というお願いの方が受け容れられやすいということでしょうか。要は、口実は何であれ、薬物依存症からの回復に役立つ社会資源との出会いの機会を少しでも増やすことで

す。その意味では、いま私たちが取り組んでいる試みは、東京という大都市をフィールドとした、薬物問題を抱える刑務所出所者のための、「出会い系」システムの実験といえるでしょう。このシステムがしっかりと機能するようになれば、刑務所を出た人はこれまでよりも地域で孤立せず、薬物についてひとりで悩まずにすむようになると思います。

おわりに

薬物依存症者の地域支援とは、どの機関でやろうとも、あるいは、誰がどうやろうとも、結局のところ、「策で水をすくう」がごとき仕事です。しかし、その「策」を何枚も重ね、いわば「多重構造の策」を作れば事態は一変します。策から漏れ出る水は少なくなり、策の目の上に残る水が多くなるのではないのでしょうか。

いうまでもなく、薬物依存症の支援は長期にわたります。なにしろ、薬物依存症は再発と寛解をくりかえすことが想定される慢性疾患であり、治療の貯金ができないからです。ある時期どこかですばらしい回復プログラムを受けても、半年間支援が途切れれば、その効果はあっさりとなに帰します。支援の継続こそがすべてなのです。

近年、ハームリダクションの考え方が普及するに伴い、海外では、「依存症 (addiction)」の対義語は、『ソバ (sober/clean)』ではなく、『つながり (connection)』という認識が広まっています。こうした考えを現行法の枠組みにおいて実現しようとするならば、まさにこの、「おせっかい」な声かけ、そして、その声かけを通じて薬物依存症者とながり、彼らを地域で孤立させないシステムを構築することだと確信しています。

引用文献

- 松本俊彦 (2017) 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業 (精神障害分野) 刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究 (研究代表者松本俊彦) 平成28年度総括・分担研究報告書: 11-51, 2017.
- 松本俊彦 (2018) 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業 (精神障害分野) 刑の一部執行猶予下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究 (研究代表者松本俊彦) 平成29年度総括・分担研究報告書: 9-30.
- 松本俊彦 (2019) 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業 (精神障害分野) 刑の一部執行猶予下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究 (研究代表者松本俊彦) 平成30年度総括・分担研究報告書: 15-57.
- Motto, J.A. & Bostrom, A.G. (2001) A randomized controlled trial of postcrisis suicide prevention. *Psychiatric Services* 52: 828-833.
- 日本財団 (2017) 日本財団自殺意識調査報告書. 日本財団. 東京.

普及運動・国連支援募金

「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉



令和元年度も厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが主催し、国際連合(薬物犯罪事務所)、警察庁など関係11省庁の協賛及びボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、ロータリークラブほか43団体後援のもとに「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施され、その一環としての「6・26ヤング街頭キャンペーン」は、6月27・28日を中心に約一ヵ月間、各都道府県で実施されました。(755ヶ所、約39,584人参加)

本普及運動は、新国連薬物乱用根絶宣言(2009(2019年)の支援事業の一環として、官民一体となり、国民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて、国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知を図り、内



ダメ。ゼッタイ。 全国にコダマする



外における薬物乱用防止に資するために実施されるものです。

(公財) 麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、この運動と並行して、麻薬乱用防止活動に従事する民間団体の活動資金を国連を通じて支援するための「国連支援募金」運動を実施し、本年も全国から善意の浄財が集まりました。

また同期間中には、各種薬業関係団体、理・美容、クリーニング、浴場、飲食業等の各環境衛生同業組合等のご協力により、店頭でののぼり、ポスター掲出、「一声運動」による啓発、募金運動などを行なう「地域団体キャンペーン」も全国的に実施されました。

以下、各都道府県からお寄せいただいた「6・26ヤング街頭キャンペーン」等の状況をご報告いたします。

北海道

月 日	6月20日～7月19日
開催場所	札幌市、旭川市等、全道179市町村で実施。
活動主体	北海道、北海道警察本部、北海道薬物乱用防止指導員連合協議会、北海道薬物乱用防止指導員各地区協議会（二一地区）、ヤングボランティア（ボースカウト、ガールスカウト、中学生、高校生、大学生等）、薬業関係団体、保護司会、青少年育成団体、関係行政機関等
参加人員	約600人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 全道21地区で、北海道薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生等）、薬業関係団体会員、保護司、民生委員、警察官、市町村職員、保健所職員等が、大型スーパー前、各祭事イベント会場等において、道民を対象に、危険ドラッグ、大麻等の薬物の乱用防止に関するチラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布するとともに、のぼり、ポスターを掲示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 6月20日～7月19日までの間、道内約300店舗（薬局、薬店、道の駅、温泉、スーパー等）の協力を得て、麻薬・覚せい剤等の乱用防止に関するチラシ等の配布、ポスターの掲示を行うとともに、危険ドラッグ、大麻等の危害について青少年対して「一声運動」を実施するとともに、国連支援募金箱の協力を得た。

青森県

月 日	6月26日、29日、30日
開催場所	（青森市）ＪＲ青森駅前（26日） （弘前市）さくら野百貨店弘前店（29日） （八戸市）はっち前（八戸市中心街商店街）はちのへコテン会場（30日） 主催 青森県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 協力団体 青森県薬剤師会、青森市薬剤師会、弘前薬剤師会、八戸薬剤師会、青森県医薬品配置協会、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、八戸学院光星高等学校 青森大学薬学部、青森県薬物乱用防止指導員各地区協議会、青森市保健所、八戸市保健所、青森県
活動主体	



北海道

岩手県

月 日	6月23日、7月6日
開催場所	①イオン一関店（一関市）、 ②ユニバース久慈ショッピングセンター店（久慈市） 計2ヶ所
活動主体	岩手県薬物乱用防止指導員、管内ガールスカウト、一関保健所、久慈保健所



青森県

参加人員	（青森市）34人 （弘前市）70人 （八戸市）73人
活動状況	6・26ヤング街頭キャンペーン 6・26ヤング街頭キャンペーンとして、通行人等に対し啓発用パンフレット、バンソウコウ等の配布をするとともに薬物乱用防止の呼び掛けを行い、併せて「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行った。

宮城県	
月 日	開催場所
7月2日、5日、10日、12日、20日、27日、30日、8月3日	各地区イオンモール店舗、仙台駅ペデ



岩手県

活動状況	参加人員	
	① 中部	② 大船渡
① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内2会場にて、薬物乱用防止指導員、ガールスカウトの協力のもと、一声運動、リーフレット等の配布により、薬物乱用防止啓発を行った。 ② 地域団体キャンペーン 県薬剤師会、県生活衛生同業組合等の協力店舗においてポスター掲示、薬物乱用防止の呼び掛けを行った。 その他、夏の高校野球岩手県大会会場内に啓発横断幕を設置し、広く県民に対し薬物乱用防止の普及啓発を行った。	合計 25名	13名、12名



宮城県

活動状況	参加人員	活動主体	ストリアンデッキ 計8ヶ所
① 6・26ヤング街頭キャンペーン 各会場において、薬物乱用防止指導員、高校生ボランティアが中心となり、啓発資材(リーフレット・絆創膏等)の配布、募金活動を実施したほか、のぼりやパネル、薬物標本を展示し、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。 ② 地域団体キャンペーン 7月20日に仙台市薬剤師会が、全国政令指定都市薬剤師会統一薬物乱用防止キャンペーンとして、仙台駅ペデストリアンデッキにて、うちわやポケットティッシュを配布した。	約300人	宮城県内各保健所、宮城県薬物乱用防止指導員、高校生ボランティア、ライオンズクラブ、ワイワイクラブ、各地区薬剤師会、各地区医師会、各地区警察署、各市町村	

秋田県		月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
		6月22日、26日、7月6日、7日、14日	秋田県立能代高等学校(能代市)、秋田駅東西連絡自由通路ぼろーど(秋田市)、いとく鷹巣ショッピングセンター、イオンタウン鷹巣(北秋田市)、イオン横手店(横手市)、イオンスーパーセンター大館店(大館市)、イオンスーパーセンター本荘店(由利本荘市)、イオンモール大曲(大仙市)、湯沢雄勝広域交流センター(第34回湯沢市ふれあい広場)会場内(湯沢市) 計9カ所	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 秋田県実行委員会 ・大館鹿角地域実行委員会 ・本荘由利地域実行委員会 ・鷹巣阿仁地域実行委員会 ・大曲仙北地域実行委員会 ・能代山本地域実行委員会 ・横手平鹿地域実行委員会 ・秋田周辺地域実行委員会 ・湯沢雄勝地域実行委員会	計 353人	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内9カ所で街頭キャンペーンを実施した。ヤングボランティア(高校生・大学生等)の協力を得て、駅などの公共施設、商店街、大型ショッピングセンター等において横断幕、のぼり、なまはげ、ゆるキャラの着ぐるみ等を活用しながら、「ダメ。ゼッタイ。」一声運動、厚生労働大臣メッセージ伝達、ポケットティッシュやリーフレットなどの啓発資材の配布、

国連支援募金活動を実施した。

②地域団体キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動地域実行委員並びに薬物乱用防止指導員等の協力により、薬局や病院等にてポスターの掲示、リーフレットの配布等を行った。



秋田県

山形県	月 日	開催場所	活動主体	参加人員
	6月20日、22日、27日、7月6日	6・26ヤング街頭キャンペーン 山形市（イオンモール山形南） 三川町（イオンモール三川） 計2市町2ヶ所	駅前街頭キャンペーン J R 山形駅、J R 新庄駅、J R 米沢駅、 J R 酒田駅、J R 鶴岡駅	147名

活動状況

- ①6・26ヤング街頭キャンペーン
- 県内のショッピングモール2ヶ所において、ヤングボランティア（高校生・専門学校生等）、薬物乱用防止指導員及び関係団体の協力を得て、買い物客等に薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット等の啓発資料の配布を行った。
- ②駅前街頭キャンペーン
- 運動期間初日（6月20日）に山形県薬剤師会等の関係団体の協力を得て、県内主要駅において、主に通学中の高校生を対象に薬物乱用防止の呼びかけ及び啓発リーフレット、ティッシュ等の配布を行った。
- ③地域団体キャンペーン
- 39協賛団体にポスター、リーフレット、募金箱を送付し、各団体構成員への薬物乱用防止の啓発及び国連支援募金活動への協力を依頼した。



山形県

福島県	月 日	開催場所
	6月20日～7月19日	福島市、伊達市、二本松市、郡山市、

活動主体

参加人員

活動状況

田村市、須賀川市、石川町、平田村、白河市、棚倉町、会津若松市、喜多方市、会津坂下町、南会津町、相馬市、いわき市 計16市町村 18ヶ所

県、県薬物乱用対策推進本部、「ダメ。ゼッタイ。」県普及運動実行委員会、各地区薬物乱用防止指導員協議会（県内16地区）、関係団体、ヤングボランティア（高校生、専門学校生、ボーイスカウト、ガールスカウト等）

1,120名

①6・26ヤング街頭キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中に、県内16市町村18ヶ所において6・26ヤング街頭キャンペーンを開催した。

各地区でキャンペーンに併せて「6・26ヤング街頭キャンペーンセレモニー」を開催し、ヤングボランティア代表による「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用撲滅宣言等を行った。

また、各地区のキャンペーンでは、薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア、関係団体の協力を得て、J R駅前、ショッピングセンター等においてリーフレット、ポケットティッシュ、風船などを配布しながら薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが中心となり、国連支援募金活動を実施した。

②地域団体キャンペーン

関係行政機関、企業、薬局等の協力を得て、ポスター掲示やパンフレット配布を行い、また、国連支援募金活動を通じて一般住民等への啓蒙活動を行った。

③その他

全国高等学校野球選手権福島大会が実施されている2カ所の球場に横断幕「薬物乱用は「ダメ。ゼッ

「タイ」を掲示し、啓発を図った。



福島県

茨城県

月 日	5月26日 ～ 7月20日
開催場所	水戸市、笠間市、小美玉市、ひたちなか市、大子町、日立市、高萩市、鉾田市、行方市、潮来市、龍ヶ崎市、土浦市、つくば市、筑西市、下妻市、常総市、坂東市、古河市 計23カ所(①、③合計)
活動主体	茨城県、茨城県薬物乱用対策推進本部、茨城県薬物乱用防止指導員協議会、ヤングボランティア(中・高校生)
参加人員	983名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内15カ所で、薬物乱用防止指導員が中心となり、中学生・高校生等のヤングボランティアに加え、薬



茨城県

事関係団体、ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青少年育成協会、市町村、警察等の協力を得て、街頭においてリーフレット、カットバン、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。併せて、国連支援募金活動を行った。また、各地区において広報誌等を利用して地域に根ざした啓発活動を効果的に実施した。

②地域団体キャンペーン
県内の薬局等の薬事関係施設、理・美容所、旅館等の生活衛生営業施設、食品関係施設、病院・診療所、大学・専門学校等約3,000の店舗・施設の協力を得て、ポスターの掲示やリーフレットの配布を実施した。併せて店頭等に募金箱を設置し、国連支援募金への協力を呼びかけた。

③その他
茨城空港において、県警及び税関と合同で特別キャンペーンを行い、利用者に対してリーフレット、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布した。
また、高校野球県大会会場(6球場)、国営ひたち海浜公園において横断幕の掲示を行い、来場者に対する啓発を行った。

栃木県

月 日	6月22 ～ 30日
開催場所	宇都宮地区(JR宇都宮駅、ララスクエア宇都宮、オリオン通り商店街、旧パルコ宇都宮店)、県西地区(イオン今市店)、県南地区(イオン栃木店)、県北地区(JR矢板駅西口ロータリー)、安足地区(アピタ足利店、イオンモール佐野新都市) 計9カ所
活動主体	栃木県 宇都宮市
参加人員	219名
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内9ヶ所で薬物乱用防止指導員、ヤングボランティア(ボーイスカウト、ガールスカウト、中・高校生、大学生)、栃木県薬物乱用防止学生サポーター「ダメ♥ゼッ隊」、関係機関、栃木SC、プロバスケットボールチームの宇都宮ブレイクスの協力を得て啓発資材の配布や国連支援募金活動を実施した。 当キャンペーンの趣旨や、社会問題となっている大麻や覚せい剤などの薬物の恐ろしさを説明し、本事業の目的である薬物乱用を根絶するための活動を実施した。 ②地域団体キャンペーン 関係機関、企業等の協力を得て啓発ポスターの掲示やリーフレットの配布を行った。

群馬県

月 日	6月20日～7月28日
開催場所	前橋地区(①JR前橋駅、②JR新前橋駅)、高崎地区(③JR高崎駅東口、

開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
④ JR高崎駅西口ペDESTリアンデッ キ)、渋川地区(⑤ JR渋川駅)、伊勢 崎地区(⑥ スマック伊勢崎)、安中地 区(⑦ JR安中駅)、藤岡地区(⑧ JR 群馬藤岡駅)、富岡地区(⑨ ベイシ ア富岡店)、吾妻地区(⑩ JR中之条 駅)、利根沼田地区(⑪ JR沼田駅)、 太田地区(⑫ 新田ショッピングセン ターニコモール、⑬ ジョイフル本田新 田店)、桐生地区(⑭ JR桐生駅、⑮ 上毛電鉄西桐生駅、⑯ 上毛電鉄赤城 駅)、館林地区(⑰ 東武鉄道館林駅、 ⑱ 東小泉駅) 計18カ所	群馬県、前橋市、高崎市、群馬県薬物 乱用対策推進本部、群馬県「ダメ。ゼッ タイ」薬物乱用防止推進連絡会議、「ダ メ。ゼッタイ」各地区推進連絡会議 (12地区)、ヤングボランティア(ボー イスカウト、ガールスカウト、高校生 等)、関係団体(、薬剤師会、保護司会、 民生委員児童委員協議会、少年補導員 連絡会、医薬品配置協会、ライオンズ クラブ、更生保護女性会、食品衛生協 会、ロータリークラブ等)	538人	① 県内18カ所で、薬物乱用防止指導員、ヤングボ ランティア、関係団体、警察関係職員、県職員、 保健所及び保健福祉事務所職員、市町村職員等、 合計538人が駅前やショッピングセンター、 高校等において、薬物乱用防止啓発リーフレッ ト、危険ドラッグ乱用防止啓発リーフレット、 ポケットティッシュ、絆創膏等の啓発資材を配 布しながら薬物乱用防止を呼びかけた。また、 ヤングボランティアが中心となって、国連支援

③	②
募金活動を行った。 地域団体キャンペーンとして、薬局や飲食店、 理容店、クリーニング店、旅館等の協力を得て、 ポスターの掲示及び一声運動を実施し、併せて 店頭で募金箱を設置してもらい国連支援金募金 活動への協力を呼びかけた。 7月6日から28日までの期間、第101回全国 高等学校野球選手権群馬大会が実施された上毛	



群馬県



栃木県

開催場所	月 日	参加人員	活動状況
イオンモール川口前川、北朝霞駅、朝 霞台駅、春日部駅、越谷駅、新越谷駅、 越谷市民球場、草加朝顔市、大宮駅、 東松山市内、小川町七夕まつり、嵐山 町夏祭り、坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅、 メットライフドーム、羽生駅、加須駅、 行田市教育文化センター、久喜提燈祭 り、熊谷うちわ祭、深谷まつり、本庄 祇園まつり、あめ薬師縁日、埼玉スタ ジアム2002 計25カ所	6月22日 ～ 8月4日	約1000人	① 6・26ヤング街頭キャンペーン、青少年啓発キャ ンペーン 県内の祭りや駅頭等において、横断幕・のぼりを 掲示するとともに、リーフレット、うちわ及びウェッ トティッシュ等の啓発資材を配布した。また、ボー イスカウトなどによる街頭募金を通じて、薬物乱用

埼玉県

④
新聞敷島球場及び高崎城南野球場に「ダメ。 ゼッタイ。」の横断幕を掲出した。 6月23日にザスパクサツ群馬の試合会場にて、 群馬県警察本部と合同で、来場者に対し薬物乱 用防止啓発を実施した。

防止を訴えた。

② 地域団体キャンペーン

関係団体の店頭等にポスター掲示及び募金箱設置を行い、国連支援募金の呼びかけを行うとともに、関係団体が主催するキャンペーンにおいて啓発資材を配布した。

③ その他

県ホームページや市町村広報紙等の様々なメディアを活用し、薬物乱用防止の広報を実施した。また、県内の学校や関係団体・企業へリーフレットを配布し、国連支援募金の呼び掛けを行った。

千葉県

月 日	5月25日～7月26日
開催場所	習志野市（2ヶ所）、市川市、松戸市、我孫子市、野田市、佐倉市、香取市（2ヶ所）、銚子市、東金市、茂原市、勝浦市、館山市、鴨川市、木更津市、市原市、千葉市、船橋市、柏市 計 20ヶ所
活動主体	千葉県、千葉県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、千葉県薬物乱用防止指導員協議会
参加人員	685人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内20ヶ所において、各薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、警察署、市町村の関係機関やライオンズクラブ、ロータリークラブ等の関係団体及びボーイスカウト、ガールスカウト等のヤングボランティアの協力を得て、うちわ、ポケットティッシュ、リーフレット等啓発資材の配布を行い薬物乱用防止を訴えた。 ② 地域団体キャンペーン

医師会、歯科医師会、薬剤師会、薬業会、理容生生活衛生同業組合、美容業生活衛生同業組合、クリーニング生活衛生同業組合等の協力を得て、関係施設にポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し、薬物乱用防止を訴えた。

③ 広報啓発活動

県ホームページ等の媒体を通じて薬物乱用防止を訴えた。



千葉県



埼玉県

東京都

月 日	① 6月23日 ②③ 6月20日から7月19日までの期間
開催場所	① 「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」都民の集い（東京ドームシティラクーアガーデンステージ、1階イベント広場） ② 行政機関（都保健所 他）
活動主体	① 都民の集い（主催…東京都、東京都薬物乱用対策推進本部、東京都薬物乱用防止推進協議会、厚生労働省（公財）麻薬・覚せい剤乱用防止センター 共催…文京区、警視庁） ② 行政機関
参加人員	① 約1,700人
活動状況	① 都民の集い 〈催し物〉 (1) 式典（主催者・共催者挨拶等） (2) 警察犬（薬物搜索犬）デモンストレーション (3) トークライブ・ステージショー（出演者…ハマカーン） (4) 薬物乱用撲滅宣言 〈企画展示等〉 (1) 薬物乱用防止等企画展示（ポスター・パネル等） (2) 啓発リーフレット・グッズ配布 (3) 国連支援募金活動 (4) 着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ。」君、ダメ。くま君、ピーボくん」による啓発活動 (5) 体験型アトラクション（クイズラリー、的あてゲーム） ② 行政機関 啓発ポスターの掲示などを行った。 ③ その他 都広報紙で薬物乱用防止に関する内容を取り上げ街頭ビジョンやインターネット動画広告等で啓発動画を放映した。



東京都

神奈川県

月 日	7月8日ほか
開催場所	横浜駅ほか県内主要駅、スタジアム、文化施設、商業施設等
活動主体	県薬剤師会、神奈川県、薬物クリーンかながわ推進会議（薬物乱用防止指導員協議会、麻薬等薬物相談員会、保護司会連合会、横浜税関、県内関係機関等182団体）、市町村、教育委員会、県警察本部等
参加人員	約2,000人（横浜駅）
活動状況	県薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施期間中に県内各地において、スタジアム、地域のお祭り、イベント等における啓発資料の配布やミニ集会等、地域と一体となった啓発活動・国連支援募金活動を実施した。また、各関係機関・団体及び市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働き

かけを行った。

特に、7月8日に横浜駅において、関係団体等の協力を得て「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭キャンペーンを実施した。着ぐるみ「ダメ。ゼッタイ子ちゃん」も駆けつけ、リーフレット等の啓発資料の配布による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、横断幕やのぼり旗を活用し、普及啓発を行った。街頭キャンペーンに加え、ポスター掲示や県薬務課公式ツイッター（@Kana_yaku）等も活用し、広く県民に薬物乱用防止を呼び掛けた。



神奈川県

新潟県

月 日	6月19日ほか
開催場所	村上市、新発田市、五泉市、三条市、長岡市、魚沼市、南魚沼市、十日町市、柏崎市、上越市、糸魚川市、佐渡市、新潟市 13市、13ヶ所
活動主体	新潟県、新潟県薬物乱用対策推進本部（新潟県教育委員会、新潟県警察本部、

活動状況	新潟県地方検察庁、新潟海上保安部、新潟保護観察所、新潟税関支署、新潟労働局、新潟少年鑑別所、東京入国管理局新潟出張所、一般社団法人新潟県医師会、新潟県精神科病院協会、公益社団法人新潟県薬剤師会、新潟県市長会、新潟県町村会、新潟県薬物乱用防止指導員、一般社団法人新潟県歯科医師会、新潟県青少年健全育成県民会議、社会福祉法人新潟県社会福祉協議会、日本ボーイスカウト新潟連盟、一般社団法人ガールスカウト新潟県連盟、国際ロータリー第2560地区ガバナー事務所、ライオンズクラブ国際協会333-A地区、公益社団法人新潟県防犯協会、公益社団法人新潟県食品衛生協会、公益財団法人新潟県生活衛生営業指導センター、一般社団法人新潟県医薬品登録販売者協会、新潟県医薬品配置協議会、日本医薬品卸勤務薬剤師会新潟県支部、新潟県高等学校野球連盟
参加人員	約263人

① 6・26 ヤング街頭キャンペーン

県内13会場において、高校生等のヤングボランティアをはじめ、関係団体等の協力を得て、リーフレット・ポケットティッシュなどの啓発資料を配布し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を行った。

三条市の会場では、地元で活動している新潟お笑い集団「NAMARA」のタレントの方からも参加協力をいただき、啓発活動を行った。

② その他

ア 全国高等学校野球選手権大会新潟県大会期間



富山県



新潟県

中、会場の鳥屋野球場及びハードオフエコスタジアムに薬物乱用防止の懸垂幕及び横断幕を掲出し、高校生をはじめ広く県民に啓発を図った。
イ 県庁構内等で薬物乱用防止啓発の横断幕、ポスターを掲出するとともに、庁舎内の生協売店や金融機関等に募金箱を設置し、来庁者等に対して啓発を行い、募金の協力を呼びかけた。

富山県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
7月7日	富山市、高岡市、魚津市、滑川市、砺波市、射水市 計 6市 6ヶ所	富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会（41団体） ○6・26ヤング街頭キャンペーン参加者 ・ 高校生等の学生（9校、60人） ・ 富山県薬物乱用「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 一般社団法人富山県医薬品登録販売者協会、ガールスカウト富山県連盟、公益財団法人富山県防犯協会、公益社団法人富山県薬剤師会、国際ソロプチミスト、富山県医薬品小売商業組合、富山県医薬品配置協議会、富山県更生保護女性連盟、富山県高等学校PTA連合会、富山県少年警察ボランティア連絡協議会、富山県塗料商同業会、富山県内少年補導センター連絡協議会、富山県BBS連盟、富山県保護司会連合会、日本ボーイスカウト富山県連盟、ライオンズクラブ国際協会334-D地区（五十音順） ・ 警察職員、県職員、富山市保健所職員	322人	高校生等の学生、ボーイスカウト、ガールスカウトのヤングボランティアを中心に、薬物乱用防止指導員、ボランティア団体等が、県下六会場（繁華街、

石川県

月 日	開催場所	活動主体
6月23日ほか	金沢市、加賀市、津幡町、中能登町、輪島市 計5会場	県、警察本部（組織犯罪対策課、少年課）、金沢市保健所、薬剤師会、保護



石川県

ショッピングセンター等）において横断幕やのぼりを掲示し、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、リーフレット、絆創膏、ポケットティッシュの啓発資材を配布した。併せて、国連支援募金活動を実施した。
また、青少年が集うイベント（第101回全国高等学校野球選手権富山大会、カターレ富山公式戦）において、会場での横断幕・ポスター掲示を行うとともに、場内放送及び啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。
その他、交通広告を利用し、薬物乱用防止広報活動を実施した。

活動状況 ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 金沢駅前や大型ショッピングセンターなど県内5会場において、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト等）、薬物乱用防止指導員及び薬業団体の会員が中心となり、会場を訪れた買い物客等にリーフレットやポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えるとともに、ヤングボランティアが国連支援募金への協力を呼びかけた。	参加人員 265人	司会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、ライオンズクラブ、更生保護女性連盟、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト等
	活動主体 県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟	

活動状況 ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内6カ所のショッピングセンター等で、ヤングボランティア（ガールスカウト、ボーイスカウト）、薬物乱用防止指導員が中心となって、啓発物（リーフレット、絆創膏、風船等）の配布、マスコット着ぐるみ等のほり等を使用した街頭キャンペーンを実施し、薬物乱用防止の呼びかけおよび国連支援募金活動を行った。 一部会場では、啓発パネルおよび薬物標本の展示を併せて行った。 ② 地域団体キャンペーン 病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店等の各関係機関・団体および市町にポスターの掲示および募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支	参加人員 約200人	活動主体 県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟
	活動主体 県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟	



福井県

活動状況 ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内4保健所1支所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による『ダメ。ゼッタイ。』普及運動における街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージの披露をはじめとした式典を開催した。それに引き続き、参加学生・ガールスカウトが中心となって、リーフレットその他啓発資材の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。併せて、ポスター、のぼり、横断幕を掲示し、普及啓発に努めた。 ② 地域団体キャンペーン 運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等において、リーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともに		活動主体 県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟	
参加人員 476人	活動状況 ① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県内4保健所1支所単位の各地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、各関係機関・団体等の協力を得る中で、参加学生代表による『ダメ。ゼッタイ。』普及運動における街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージの披露をはじめとした式典を開催した。それに引き続き、参加学生・ガールスカウトが中心となって、リーフレットその他啓発資材の配布等による薬物乱用防止の呼びかけを行うとともに、国連支援街頭募金活動を行った。併せて、ポスター、のぼり、横断幕を掲示し、普及啓発に努めた。 ② 地域団体キャンペーン 運動期間中、各関係機関・団体や市町村役場等において、リーフレットその他啓発資材等の配布を行うとともに	参加人員 約200人	活動主体 県、各警察署、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、県・各地区薬物乱用防止指導員協議会、ガールスカウト日本連盟福井県支部、日本ボーイスカウト福井連盟

山梨県

援募金への呼びかけを行った。
また、各学校で薬物乱用防止教室を実施し、若年層への薬物乱用防止について啓発を行った。

に、ポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

③メッセージ映像の放映

7月11日に開催された「令和元年度青少年の非行・被害防止県民大会」において、今年度配付された薬物乱用防止の啓発メッセージ映像を放映した。（参加者約300人）



山梨県

長野県

月 日	開催場所
6月18日～6月26日	イオンモール佐久平前、JR佐久平駅前、アリオ上田店前、レイクウオータ岡谷、アピタ伊那店前、ベルシャイン駒ヶ根店前、アピタ飯田店前、JR木曽福島駅前、木曽青峰高等学校前、イオン木曽福島店、蘇南高等学校前、JR松本駅前、フレスポ大町、大町岳陽高等学校前、池田工業高等学校前、白馬高等学校前、綿半スーパーセンター須坂店、イオン中野店、長野駅前
計 15市町村 19ヶ所	

活動主体	参加人員	活動状況
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動長野県実行委員会参画4機関・23団体 県、県薬物乱用対策推進協議会、地区薬物乱用対策推進協議会、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県医薬品卸協同組合、県製薬協会、県医薬品登録販売者協会、県医薬品配置協議会、県保護司会連合会、県子ども会育成連合会、ライオンズクラブ国際協会334-E地区、国際ロータリー第2600地区、県ホテル旅館生活衛生同業組合、県美容業生活衛生同業組合、県クリーニング生活衛生同業組合、県理容生活衛生同業組合、県公衆浴場業生活衛生同業組合、日本ボイイスカウト長野県連盟、ガールスカウト長野県連盟	716人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県下19ヶ所において、ボイイスカウト・ガールスカウトの青少年や、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ・ロータリークラブ会員、保護司、薬業関係者、行政機関職員等716人が、通行人23,670人に啓発用のチラシやポケットティッシュ等を配布して薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン 病院・診療所・歯科診療所、薬局・薬店、理・美容所、クリーニング店、ホテル・旅館、公衆浴場、自動車教習所等約9,000施設において、ポスターの掲示と一声運動を実施した。 また、薬局・薬店約1,100店舗の店頭で募金箱を設置し、国連支援募金に協力した。

岐阜県



長野県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月22日、23日	岐阜市、各務原市、本巣市、大垣市、池田町、美濃市、郡上市、美濃加茂市、多治見市、中津川市、高山市、下呂市 計12ヶ所	岐阜県、岐阜市、郡上市、保健所、各地区薬物乱用防止指導員協議会、県市薬剤師会、医薬品登録販売者協会、医薬品配置協議会、保護司会、ボイイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ、警察署 等	403人	①6・26ヤング街頭キャンペーン JR岐阜駅前やショッピングセンターなど県下12ヶ所にて、薬物乱用防止指導員をはじめとするボランティアが、会場を訪れた方に啓発資材（絆創膏・ティッシュペーパー）やパンフレット等を配布し、「薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱

月 日	② 6月26日 ③ 7月2日	① 6月28日 ⑤ 6月30日
① JR熱海駅（熱海市） ② JR御殿場		

静岡県



岐阜県

用防止を訴えるとともに、ボーイスカウト、ガールスカウトらが国連支援募金への協力を呼びかけた。会場周辺には「ダメ。ゼッタイ。」普及運動ののぼりを掲げ、参加者はタスキや啓発用帽子を着用して積極的に活動した。

JR岐阜駅前会場では、「清流の国ぎふ」マスコットキャラクター「ミナモ」の応援も得て若者へのPRに努めた。

また、地デジデータ放送等を通じて、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動及びキャンペーンの周知と、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。

②地域団体キャンペーン

岐阜県薬物乱用対策推進本部を構成する各団体、県内各高等学校・大学等に対して、ポスターの掲示や募金箱の設置等の協力依頼を行った。

また、小学校、中学校、高等学校で開催している薬物乱用防止出前講座において、児童、生徒に対して薬物に関する正しい知識と薬物乱用防止について啓発を行った。

開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
駅（御殿場市）③JR磐田駅（磐田市） ④JR浜松駅（浜松市）⑤ヤマハスタジアム（磐田市） 計5か所	静岡県、静岡県薬物乱用対策推進本部、静岡県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、静岡県薬物乱用防止指導員協議会、各市町、一般社団法人日本ボーイスカウト静岡県連盟、一般社団法人ガールスカウト静岡県連盟、ライオンズクラブ国際協会334-C地区、国際ロータリー第2620地区、国際ソロプチミスト静岡、一般社団法人静岡県医師会、一般社団法人静岡県歯科医師会、公益社団法人静岡県薬剤師会、静岡県医薬品登録販売者協会、公益社団法人静岡県病院協会、静岡県配置医薬品協議会、静岡県医薬品卸業協会、静岡県製薬協会、静岡県理容生活衛生同業組合、静岡県美容業生活衛生同業組合、静岡県クリーニング生活衛生同業組合、静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合、一般社団法人静岡県食品衛生協会、静岡県保護司会連合会、静岡県更生保護女性連盟、静岡県カラオケBOX協会、日本塗料商業組合静岡県支部	101人	①6・26ヤング街頭キャンペーン ・6月26日、28日、7月2日に県内の駅において、薬物乱用防止指導員やライオンズクラブ等の協力を得て、啓発用リーフレット、ポケットティッシュを通行者に配布し、広く県民に薬物乱用防止を訴えた。 ・6月30日にヤマハスタジアムで開催されたJ



愛知県



静岡県

リーグサッカーの試合会場において、来場者にポケットティッシュを配布するとともに、電光掲示板での動画の放映やハーフタイムに場内を周回して啓発を行い、薬物乱用防止を訴えた。

②地域団体キャンペーン

各市町及び関係団体等の協力を得て、県内各所に啓発用ポスターを掲示するとともに、募金箱を設置して国連支援募金への呼び掛けを行った。

愛知県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
(4月) 21日 (5月) 25日 (6月) 6、21、22、23、25、28、30日 (7月) 1、3、5、6、7、12、14、15、17、19、28、30日 (8月) 2、3日 (実施見込み分を含む)	愛知県内 計43カ所 (実施見込み分を含む)	愛知県、愛知県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、15地区薬物乱用防止推進協議会(薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト、保護司会、更生保護女性連盟、各市町村、警察等)	1, 463人 (実施見込み分を含む)	6月23日(日)に名古屋市中区の栄広場や地下街において、ボーイスカウト、大学生等のヤングボランティア25名が「ダメ。ゼッタイ」君や県警の「コノハけいぶ」などのキャラクターの応援を得て啓発資材(うちわ)を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。なお、啓発資材には愛知県の薬物乱用防止PR大使「薬物乱用ダメ。ゼッタイ」である地元アイドルのOS☆Uの画像を起用した。 また、県内15地区の薬物乱用防止推進協議会がそれぞれヤングボランティア等の協力を得て、ショッピングセンター、市民まつり会場及び駅周辺等で薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金活動を実施した。 その他、大相撲名古屋場所開催時のドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)、プロ野球中日ドラゴンズ試合開催時のナゴヤドーム、Jリーグ名古屋グランパス試合開催時のパロマ瑞穂スタジアム、名古屋競馬場などで、啓発資材の配布、横断幕の設置、場

内放送、電光掲示板標示等を行い、薬物乱用防止の周知を図った。



三重県

月 日	開催場所
6月22日、25日、26日、27日、30日、7月1日、3日、4日、7日、8日、11日、12日、13日、14日、16日、17日、18日	JR桑名駅前、長島リゾート、三重県四日市庁舎、四日市市総合会館、四日市市文化会館第2ホール、大矢知地区、山手中学校、富洲原地区、大鐘町、近鉄四日市駅北口ふれあいモール、四日市市三浜文化会館、亀山駅、井田川駅、下庄駅、関駅、加太駅、亀山高校、徳風高校、マックスバリュ亀山店、マックスバリュみずほ台店、オークワ亀山店、亀山エコー、ミスタートンカチ、亀山市総合保健福祉センターあいあい、近鉄白子駅、近鉄鈴鹿市駅、近鉄

三重県

活動主体	参加人員	活動状況
主催 三重県薬物乱用対策推進本部、三重県、四日市市、薬物クリーンみえ推進協議会	729人	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内各地の主要駅、ショッピングセンターなどで薬物乱用防止指導員や薬物乱用防止指導啓発団体を中心に、三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等が官民一体となって、街頭キャンペーンを行った。 ポスターの掲示、薬物標本を展示し、横断幕やのぼり旗を掲揚するとともに、内閣府特命担当大臣のメッセージを読み上げ、高校生や県民にリーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用防止を訴えた。 他に、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動と併せて、街頭募金を行い、国連支援募金への協力を呼びかけた。 ②地域団体キャンペーン

三重県薬物乱用対策推進本部や薬物クリーンみえ推進協議会を構成する団体等の協力を得て、ポスターの掲示、啓発資材の配布や一声運動の実施、店頭での募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。

滋賀県

月 日	6月22日
開催場所	甲賀市（アル・プラザ水口店）、近江八幡市（イオン近江八幡店）計2か所
活動主体	一般社団法人ガールスカウト滋賀県連盟、日本ボーイスカウト滋賀連盟、甲賀市少年センター、近江八幡・竜王少年センター、社会福祉法人甲賀市社会福祉協議会、社会福祉法人近江八幡市社会福祉協議会、社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会、一般社団法人滋賀県医師会、一般社団法人滋賀県歯科医師会、一般社団法人滋賀県薬剤師会、一般社団法人滋賀県薬業協会、滋賀県医薬品配置協議会、水口ライオンズクラブ、滋賀県警察本部、滋賀県（業務感染症対策課・保健所）、他
参加人員	84人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内2か所のキャンペーン会場において、キャンペーン実行委員会が中心となり街頭啓発を実施した。当日、会場には「ダメ。ゼッタイ。」君、滋賀県イメージキャラクターのキャップフィーも参加した。各会場で、通行人に啓発資材のリーフレット、ボールペンを配布し、ボーイスカウト、ガールスカウトによる国連支援募金活動も併せて実施した。

②地域団体キャンペーン
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動啓発期間には、地域団体キャンペーンとして、病院、診療所、歯科診療所、薬局、薬店、ライオンズクラブ会員の施設等、地域団体の協力を得てポスターの掲示と一声運動を実施し、併せて店頭等に募金箱を設置して国連支援募金活動に協力した。



京都府



滋賀県

京都府

月 日	6月22日（土）
開催場所	京都市内繁華街4箇所 京都駅（アバンティ、ポルタ）、四条河原町、四条高倉、三条河原町
活動主体	きょうと薬物乱用防止行動府民会議 主な参画団体 京都府、京都市、京都府警察本部、京都府教育委員会、京都市教育委員会、公益社団法人ガールスカウト日本連盟京都府支部、日本ボーイスカウト京都連盟、ライオンズクラブ国際協会335-C地区、京都府薬物乱用防止指導員協議会
参加人員	啓発対象者 20,000名 関係者 310名 〈内訳〉 ・薬物乱用防止指導員 104名 ・大学生等 94名 ・ガール、ボーイスカウト 35名 ・その他府民会議参画団体 77名
活動状況	(1) 6・26ヤング街頭キャンペーン 京都駅及び京都市内繁華街4箇所において、府・市・府警関係者をはじめ、大学生、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト等が薬物乱用防止を訴えるとともに、国連支援募金への協力呼びかけを行った。 (2) 地域団体キャンペーン ・各種関係団体の店頭等にポスターの掲示及び募金箱の設置を依頼し、キャンペーンの周知と国連支援募金への呼びかけを行った。 ・その他、京都府各地区の薬物乱用防止指導員、警察職員及び各保健所職員等が、駅前、市街地及び

商店街等での啓発資材の配布や、小中学校の児童、生徒を対象にした薬物乱用防止教室を実施
・「社会を明るくする運動」に薬物乱用防止指導員が多数参加し、薬物乱用防止活動をアピールした。
(薬物乱用防止指導員 約500名)

大阪府

月 日	① 7月7日 ② 6月20日～7月19日
開催場所	① J R天王寺駅中央コンコース ② 府内各地域 計5ヶ所
活動主体	① 6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン 大阪府・大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会・大阪府薬物乱用防止指導員協議会 ② 地域団体キャンペーン 大阪府「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会構成メンバー (大阪府警察・市町村・薬物乱用防止指導員協議会その他協力団体・企業等)
参加人員	① 6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭キャンペーン啓発者 約2,000人 関係者 38人 ② 地域団体キャンペーン参加者 9,300人 関係者約403人
活動状況	① 6・26国際麻薬乱用撲滅デー街頭 J R天王寺駅中央コンコースにおいて大学生による薬物乱用撲滅宣言を行うとともに、ボランティア(府内大学生等)協力のもと、J R天王寺駅中央コンコースに於いて啓発資材を配布し、薬物乱用防止を呼びかけた。

② 地域団体キャンペーン
「ダメ。ゼッタイ。」普及運動期間中、各関係機関・団体および市町村にポスターの掲示、募金箱の設置等を依頼し、薬物乱用防止の働きかけを行った。
また、府内各地では、街頭やイベント会場においてリーフレットその他啓発資材の配布を行い、薬物乱用防止を呼びかけた。



大阪府

兵庫県

月 日	6月22日、6月23日、6月24日、6月29日、6月30日、7月4日
開催場所	神戸市、姫路市、尼崎市、西宮市、芦屋市、宝塚市、伊丹市、高砂市、明石市、加西市、相生市、朝来市、丹波篠山市、南あわじ市、淡路市、計15か所
活動主体	県、保健所設置市、県薬物乱用防止指導員協議会、各地区薬物乱用防止指導員協議会、兵庫県警察、ライオンズクラブ、ボーイスカウト、ガールスカウト等



兵庫県

参加人員	714人
活動状況	県下12地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、ボーイスカウト・ガールスカウト等のヤングボランティアや、ライオンズクラブ、税関、海上保安庁、警察署、高校・大学等の関係機関の協力を得て、県下15か所において街頭キャンペーンを実施した。 街頭キャンペーン実施に際し、地域の実情に応じ、人の多く集まる場所を選定した。例えば、神戸地区では買い物が集まる「鉄人広場」で啓発活動を実施し、中播磨地区では、地域の主要駅である姫路駅周辺で、若者が多く集まる「姫路ゆかたまつり」での啓発活動を実施した。また、丹波地区や西播磨地区では地元高校の協力を得て、啓発会場にて高校生と共に啓発活動を実施した。 その他の地区でも、駅前、ショッピングセンター等において、のぼり、横断幕の掲出、啓発パネルの展示、兵庫県のマスコット「はばタン」の着ぐるみ等により啓発効果を高めた。 活動参加者は、啓発用のビブスや帽子、Tシャツ、タスキ等を着用し、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』」

を合言葉に、通行人等に対してリーフレット、ポールペン、ポケットティッシュ等の啓発資材を配布し、薬物乱用の害や危険性を訴えるとともに、国連支援募金活動を行った。

奈良県

月 日	6月22日
開催場所	近鉄奈良駅前基前広場 計1ヶ所
活動主体	奈良県、奈良県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、奈良県薬物乱用対策推進本部、奈良県警察本部、奈良県教育委員会、奈良市、ライオンズクラブ国際協会3351C地区8R、奈良県製薬協同組合、奈良県家庭薬配置商業協同組合、(一社)奈良県薬剤師会、(一社)奈良県医薬品登録販売者協会、奈良県医薬品小売商業組合、奈良県毒物劇物取扱者協会、奈良県家庭薬協同組合、奈良県医薬品卸協同組合、奈良県医薬品配置協議会、奈良県薬事団体連合会 等
参加人員	1000人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 6月22日(土)に近鉄奈良駅前基前広場にて、「6・26ヤング街頭キャンペーン」を開催した。薬事関係団体・警察関係等の協力の下、啓発物品(リーフレット・キズバン・啓発用ティッシュ)を配布しながら薬物乱用防止運動を行った。奈良県警察本部少年課の学生ボランティアである少年フォローズ奈POLIを中心に活動を行い、薬物乱用防止についてのアナウンスを行った。なお、この活動については

地元テレビの取材・報道がなされた。
②地域団体キャンペーン
なし



奈良県

和歌山県

月 日	6月22日、23日、7月1、4、6、8、9、13、16、19、21日、
開催場所	和歌山市、岩出市、紀の川市、橋本市、海南市、有田市、有田郡湯浅町、有田郡有田川町、御坊市、日高郡由良町、日高郡日高川町、日高郡日高町、田辺市、西牟婁郡白浜町、日高郡みなべ町、東牟婁郡串本町、東牟婁郡古座川町、東牟婁郡太地町、新宮市、東牟婁郡那智勝浦町 計29カ所
活動主体	和歌山県、和歌山県薬物乱用防止指導員協議会、和歌山県薬物乱用対策推進本部、関係機関、関係団体、一般社団法人ガールスカウト和歌山県連盟、和歌山県立医科大学ラグビー部、等



和歌山県

参加人員
のべ 678人

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン
県内9地区の薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、和歌山県立医科大学ラグビー部、一般社団法人ガールスカウト和歌山県連盟のヤングとともに和歌山県警察、和歌山海上保安部、田辺海上保安部、大阪税関和歌山支署、各少年センター、国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川、県内ライオンズクラブなどの関係機関・団体の協力を得て、駅前やショッピングセンター前などで、のぼりや横断幕を掲げ、「薬物乱用は『ダメ。ゼッタイ。』を合言葉に、リーフレット、キズバンド、ティッシュ、うちわなどの啓発物品を配布するとともに、国連支援募金活動を実施した。

②地域団体キャンペーン

後援団体等の協力により、啓発ポスターを店頭に掲示するとともに、医薬品関係業者、生活衛生関係業者の店舗や職場において、国連支援募金活動を実施した。

また、学校において薬物乱用防止教室の開催及び啓発物品の配布を行った。

6.26 各地区の活動スナップ



北海道



青森県



岩手県



宮城県



秋田県



山形県

6.26 各地区の活動スナップ



福島県



茨城県



栃木県



群馬県



埼玉県



千葉県

6.26 各地区の活動スナップ



東京都



神奈川県



新潟県



富山県



石川県



福井県

6.26 各地区の活動スナップ



山梨県



長野県



岐阜県



静岡県



愛知県



三重県

6.26 各地区の活動スナップ



滋賀県



京都府



大阪府



兵庫県



奈良県



和歌山県

6.26 各地区の活動スナップ



鳥取県



島根県



岡山県



広島県



山口県



徳島県

6.26 各地区の活動スナップ



香川県



愛媛県



高知県



福岡県



佐賀県



長崎県

6.26 各地区の活動スナップ



熊本県



大分県



宮崎県



鹿児島県



沖縄県

鳥取県

月 日	7月6日、6月30日、7月7日
開催場所	鳥取市 イオンモール鳥取北店 倉吉市 パールタウン 米子市 米子ホープタウン
活動主体	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動鳥取県 実行委員会、鳥取県、鳥取県警、鳥取 県薬物乱用防止指導員中部地区協議 会、ヤングボランティア
参加人員	【東部】 7月6日 (36人) 【中部】 6月30日 (46人) 【西部】 7月7日 (44人) 合計126人
活動状況	①6・26ヤング街頭キャンペーン 鳥取県薬物乱用防止指導員地区協議会の会員、高 校生のヤングボランティア等が中心となって、県内 3地区で、ヤング街頭キャンペーンを実施し、地域 住民に対し、リーフレットや絆創膏の啓発資材を配 布・薬物乱用防止DVDの放映を行うとともに、国 連支援募金活動及び県・県警察本部所有の着ぐるみ を使用して啓発活動を展開した。 また、街頭キャンペーン実施前に高校生ボラン ティアへ薬物乱用防止についての研修を行うなど、 若者に対する啓発にも力を入れた。 ②地域団体キャンペーン 各団体はもとより、各市町村及び県地方機関等に もポスター、募金箱等を送付し啓発に努めるとも に、国連支援募金への協力依頼を実施した。 その他、鳥取市発行の「安全安心だより」に本運 動についての記事を掲載し、市民に広く啓発広報を 行った。

島根県

月 日	6月22日、23日、25日
開催場所	松江市、出雲市、仁多郡奥出雲町、大 田市、浜田市、益田市、隠岐郡隠岐の 島町 計7ヶ所
活動主体	島根県、島根県薬物乱用対策推進本部、 カブスカウト・ボーイスカウト・ガール スカウト・中学生・高校生等のヤン グボランティア、ライオンズクラブ、 薬物乱用防止指導員等
参加人員	302人



島根県



鳥取県

岡山県

月 日	6月13日、17日、19日、20日、26日、 27日、28日
開催場所	「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協 議会（県下9地区）」管内



岡山県

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン
県内7ヶ所で、カブスカウト、ボーイスカウト、
ガールスカウト、中学生、高校生のヤングボランティ
アのほか、ライオンズクラブ及び薬物乱用防止指導
員、各関係機関の協力を得て街頭キャンペーンを実
施した。各参加者は、ショッピングセンターの入口
等で「ダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなく
しましょう。」を合言葉に啓発資材を配布するとと
もに、国連支援募金への協力を呼びかけた。
②地域団体キャンペーン
市町村、警察署、医療機関、薬局等の協力により
ポスターの掲示やリーフレット等啓発資材の配布を
行ったほか、各機関の窓口へ募金箱を設置し、国連
支援募金への協力を呼びかけた。

	（岡山市、倉敷市、津山市、笠岡市、総社市、高梁市、新見市、備前市、真庭市、美作市、浅口市、和気町、勝央町において実施） 県、県警察本部、保健所、県覚醒剤等薬物乱用対策推進本部、県覚醒剤等薬物乱用防止指導員協議会（医師会、薬剤師会、保護司会連合会、少年警察協助力連合会、愛育委員会、理容生活衛生同業組合、食品衛生協会、ライオンズクラブ336―B地区）、同各地区協議会、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、同各支部（後援等） 県内の各税関支署、各海上保安部、各警察署等	活動主体	参加人員 787人 （内訳）指導員 125名 高校生等 364名 行政関係者 100名 その他 198名	活動状況 「覚醒剤等薬物乱用防止指導員地区協議会（県下9地区）」が中心となり、JR駅前、高等学校等県下18箇所において「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に薬物乱用防止啓発用資材（パンフレット、ポケットティッシュ、絆創膏、シャープペンシル等）を配布するとともに、覚醒剤等薬物乱用防止を呼びかけ、併せて国連支援募金を実施した。 また、令和元年度も高校生等ボランティアの積極的な協力があつた。 〔参加学校〕 関西高等学校、就実高等学校、山陽女子高等学校、和気閑谷高等学校、備前緑陽高等学校、倉敷翠松高等学校、総社南高等学校、笠岡高等学校、笠岡工業高等学校、笠岡商業高等学校、岡山龍谷高等学校、
--	---	--------------------	---	--

鴨方高等学校、おかやま山陽高等学校、高梁高等学校、高梁城南高等学校、高梁日新高等学校、新見高等学校、共生高等学校、勝山高等学校、津山工業高等学校、津山商業高等学校、勝間田高等学校、林野高等学校	広島県	月 日 ① 6月15日、22日、23日、30日、7月7日、14日 ② 6月20日～7月19日までの試合日に放映	開催場所 ① 県内9ヶ所 （広島市、廿日市市、坂町、呉市、北広島町、東広島市、三原市、福山市、三次市） ② MAZDA ZOOM―ZOOM スタジアム広島（広島市）	活動主体 広島県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会	参加人員 911人 （内訳） ヤングボランティア 451人 指導員 153人 ヤング指導員 9人 ライオンズクラブ会員 69人 行政関係者 107人 その他 122人	活動状況 ① 626ヤング街頭キャンペーン 薬物乱用防止の啓発物品を配布するとともに、募金活動を行った。 クイズラリーの導入や地元高校器楽部による演奏、各団体・地域のキャラクターの出演など、各地区ごとで啓発・募金活動を盛り上げた。 また、昨年4月以降に委嘱した大学生の「広島県
---	-------------------	--	---	--	--	---

参加人員 447人 （うちヤングボランティア188人）	活動主体 山口県薬物乱用防止推進員協議会 等	開催場所 萩市・下関市の9市1町（13か所）	月 日 6月8日、15日、16日、22日、7月6日、7日、25日、30日	山口県 柳井市・平生町・周南市・防府市・山口市・宇部市・山陽小野田市・長門市・萩市・下関市の9市1町（13か所）
--	---	---	---	---



広島県

ヤング薬物乱用防止指導員」にも参加してもらい、中高生のヤングボランティアに対し薬物の断り方を劇で紹介するなど、より幅広い世代へ薬物乱用防止を呼び掛けた。

② 野球場における広報
マツダズームスタジアム広島において電光掲示板による広報啓発を実施した。

徳島県



山口県

活動状況

①6・26ヤング街頭キャンペーン
啓発用たすきや帽子を着用したヤングボランティア及び山口県薬物乱用防止推進員地区協議会の会員等が中心となって、「ダメ。ゼッタイ。」薬物乱用を合い言葉に買物客等（約9,000人）に対し、薬物乱用防止のリーフレットや啓発資材（ティッシュ・絆創膏・うちわ等）を配布した。

また、各地域で、のぼり・ポスター・風船・着ぐるみ等を活用したり、クイズを実施する等、子ども達にも薬物乱用の恐ろしさを広く訴えた。

なお、国連支援募金の呼びかけも併せて行い、薬物乱用防止に関する理解と協力を求めた。

②地域団体キャンペーン
各市町、各種関係機関・団体等の協力を得て、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動のポスターの掲示や、募金箱の設置等、国連支援募金活動を実施した。

開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
徳島市、阿南市、阿波市、美馬市、三好市、海陽町 合計6地区7カ所	県、県薬物乱用防止協議会（県下6地区協議会）、ヤングボランティア（ボーイスカウト、ガールスカウト、中学生、高校生）等	319名 薬物乱用防止指導員96名、ヤングボランティア101名、その他122名	①6・26ヤング街頭キャンペーン 県内6地区の薬物乱用防止地区協議会を活動主体として、薬物乱用防止指導員のほか、中学生、高校生をはじめとするヤングボランティア、各警察署、ライオンズクラブ等の関係機関・関係団体の協力を得て、県下6地区7カ所でヤング街頭キャンペーンを実施した。 人が集まる場所（量販店等）をキャンペーン会場として、薬物乱用防止を訴える横断幕、のぼり等を掲げ、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。国際協力で薬物乱用をなくしましょう。」を合い言葉に、来場者等に対して啓発用パンフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布し、薬物乱用防止を訴えた。 また、全ての会場において、同時に「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金活動を行った。 ②地域団体キャンペーン 薬物乱用防止地区協議会及び薬物乱用防止指導員を活動主体として、県内市町村役場、各事業所、店舗等の協力を得て、ポスター等を掲示するとともに、来所者等に対して薬物乱用防止を訴える一声運動を実施した。

香川県



徳島県

月 日	開催場所	活動主体	参加人員	活動状況
6月15日、26日、7月1日、5日、7日	高松中央商店街、高松市仏生山町、観音寺市・三豊市一円、JR高瀬駅、JR丸亀駅、小豆島オリブタウン・土庄町役場 計6カ所	香川県、各保健所薬物乱用防止対策連絡協議会、香川県麻薬・覚せい剤・シンナー禍対策推進員、市町、警察署、保護観察所、税関支署、海上保安署、ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト、少年育成センター、更生保護女性会、保護司会、薬剤師会、小学生、中学生、高校生、教員 等	約600人	県下4保健所の薬物乱用防止対策連絡協議会が中心となり、市町、警察署、ライオンズクラブ等の関

係機関・民間団体の協力を得て、県内の主要な繁華街や駅前において、横断幕やのぼりを掲げ、啓発用ジャンパー、たすきを着用し、リーフレット、ポケットティッシュ、うちわ等の啓発資材を配布しながら、薬物乱用の恐ろしさを訴えた。また、地元の小・中・高校生も多数参加し、啓発資材の配布や高校生による樽・太鼓演奏など、積極的に啓発活動を行った。街頭キャンペーンを実施するに当たり、地域の夏祭りなどのイベントと合同での実施や、通勤・通学時間帯に駅前で実施するなど、効果的な活動になるよう努めた。



香川県

愛媛県

月 日	開催場所	活動主体
7月1日、5日、20日、23日、27日	四国中央市、新居浜市、今治市、松山市、宇和島市の計5ヶ所	愛媛県、愛媛県薬物乱用防止指導員協議会（愛媛県保護司会連合会、ライオンズクラブ、愛媛県薬剤師会、愛媛県

参加人員
995名

薬業協会、愛媛県少年警察ボランティア協会、愛媛県配置薬協会、愛媛県ジェネリック販社協会、愛媛県登録販売者協会、愛媛県警察本部、愛媛県教育委員会等

活動状況

薬物乱用のない社会環境づくりを目指し、「麻薬・覚せい剤・シンナーの乱用をなくそう」の横断幕を先頭に、県警本部の音楽隊等も参加し、愛媛県イメーリアップキャラクターみきゃんやダメ。ゼッタイ。君等の着ぐるみパフォーマンスを交えながら、各地の商店街等にて街頭パレードを実施した。街頭パレードでは、リーフレット、絆創膏やポケットティッシュ等の啓発資材を配布して、薬物乱用防止を広く県民に呼びかけるとともに、国連支援のための街頭募金活動も併せて行った。

また、パレードには関係団体（愛媛県医薬品卸業協会、愛媛県医療機器販売業協会、愛媛県製薬協会等）からの参加も多数あり、啓発活動を総合的・広域的に推進することに繋がっている。これらパレード等の模様は地元紙等のマスコミで取り上げられ、薬物乱用防止に対する関心がより深まった。

なお、松山市では、高校生95名が一日薬物乱用防止指導員に委嘱され、大学生17名らと共にパレード及び街頭募金活動に参加。今治市及び宇和島市でもボランティアの高校生ら（150名、15名）がパレードや募金活動に参加した。

おつて、八幡浜市で開催予定であった街頭パレード等は、警報発令によりやむを得ず中止となった。

高知県

月 日
6月22日、7月1日、6日、12日、23日、24日



愛媛県



高知県

開催場所	活動主体
高知市、南国市、土佐清水市、四万十町、いの町、日高村、佐川町、越知町、仁淀川町（計9カ所）	高知県薬物乱用防止推進連合協議会、各地区（東部・中央東・高知市・中央西・高陵・幡多）薬物乱用防止推進協議会、ヤングボランティア（ボイス

カウト、小学生、中学生、高校生、大学生等）、民生委員、保護司、交通安全協会、ライオンズクラブ、関係行政機関職員 等
参加人員 延べ581名（うちヤングボランティア158名）

活動状況 県下6地区の薬物乱用防止推進協議会が中心となり、ヤングボランティア等の協力を得て、リーフレットや薬物乱用防止標語入ポケットティッシュなどの配布や啓発活動を実施。啓発用の帽子やたすきを着用し、県民へ薬物乱用防止を訴えと共に、国連支援募金への協力について呼びかけも行った。 高知市地区においては、市内商店街アーケードにて、土佐女子中学高等学校吹奏楽部の演奏やバトン部のパフォーマンスを先頭に、「ダメ。ゼッタイ。くん」や高知県のイメージキャラクター「くろしおくん」の着ぐるみ等も率いて、啓発パレードを行った。パレード後は、ボーイスカウトや中学生等のヤングボランティアを中心に、通行人へ啓発資料の配布及び募金活動への協力を呼びかけた。 他の地区においても、地域の量販店やイベント等、地域住民が集まる場所や機会に合わせて、啓発資料の配布や募金活動を行い、薬物乱用防止について広く県民に呼びかけた。 今後も地域の夏祭りやイベント等の日程に合わせて、地域や他団体の協力のもと、薬物乱用防止について、幅広く啓発活動を実施できるよう努める。
--

福岡県
開催場所 福岡市、北九州市、大牟田市、久留米
月 日 6月18日、20日、21日、22日、23日、26日、29日、7月4日、5日、6日、11日、16日、17日

市、その他保健福祉（環境）事務所管内（筑紫、糸島、粕屋、宗像・遠賀、嘉穂・鞍手、田川、北筑後、南筑後、京築）延べ19か所
--

活動主体 県、県薬物乱用対策推進本部、ライオンズクラブ国際協会337-A地区、県麻薬協会、（公社）福岡県医師会、（一社）福岡県歯科医師会、（公社）福岡県薬剤師会、（一社）福岡県医薬品登録販売者協会、福岡県医薬品卸業協会、（公社）福岡県製薬工業協会、福岡県医療機器協会、福岡県保護司会連合会、福岡県更生保護女性連盟、福岡県BBS連盟、日本ボーイスカウト福岡県連盟、（一社）ガールスカウト福岡県連盟
参加人員 1,308人
活動状況 ライオン広場において6月29日、県警音楽隊による演奏、薬物乱用防止クイズ等で薬物乱用防止を訴えるとともに、通行者に啓発用リーフレット及び大麻乱用防止のポケットティッシュを配布することで、広く啓発活動を行った。 県下延べ19か所において、ボーイスカウト・ガールスカウトを中心に各協力団体・関係機関のボランティアの参加を得て、のぼり・横断幕を掲げ、啓発資料の配布、国連支援募金等を実施した。

佐賀県
開催場所 佐賀市、鳥栖市、唐津市、伊万里市、鹿島市 計5ヶ所
月 日 7月5日、6日、12日
活動主体 佐賀県、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動



福岡県



佐賀県

参加人員 延べ539名（うちヤング207名）
実行委員会、薬剤師会、保護司会連合会、少年補導員連絡協議会、地域婦人連絡協議会、高等学校、ライオンズクラブ、BBS連盟、ボーイスカウト、ガールスカウト、警察署 等

① ヤング街頭キャンペーン

商業施設や駅周辺等において、高校生やボーイスカウト、ガールスカウト等のヤング、及び関係機関、協力団体の参加を得て、リーフレット、絆創膏や標語入ポケットティッシュなどの啓発資材を配布し、一声運動により通行人等に薬物乱用防止を訴えけるとともに、国連支援募金を実施した。

② 地域団体キャンペーン

各協力団体、市町、県警本部、県庁各機関等において、ポスターの掲示による啓発や募金箱の設置により国連支援募金活動を実施した。



長崎県

長崎県

開催場所	月 日
佐世保市、長崎市、壱岐市、大村市、 時津町、佐々町、新上五島町、島原市、 対馬市、合計6市3町9か所	6月29日、30日、7月1日、6日、7 日、23日、24日
活動主体	長崎県薬務行政室、薬物乱用防止指導

484人

員協議会、長崎県警察本部、長崎県薬剤師会、長崎県医薬品登録販売者協会、長崎県保護司会連合会、長崎県防犯協会連合会、ライオンズクラブ国際協会337-C地区、長崎県医薬品配置協会、日本ボイスカウト長崎県連盟、長崎県PTA連合会、長崎BBS連盟、長崎税関、各市町等

活動状況

①6・26「ダメ。ゼッタイ」ヤング街頭キャンペーン
県、薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、関係機関・民間団体等の協力を得て、県下9か所において実施した。

人が多く集まるアーケード・大型店舗を会場に、啓発用のぼり、啓発用パネル、県内中・高校生から募集した「薬物乱用防止推進ポスター」入賞作品を展示し、キャンペーンをおこなった。

参加者は啓発用のタスキ・帽子を着用し、「薬物乱用はダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、通行人、買物客等に対し、啓発資材（パンフレット・ポケットティッシュ・風船等）を配布するとともに国連支援募金への協力を行い、薬物乱用防止への理解と協力を呼びかけた。

② 地域団体キャンペーン

各団体の協力を得て関係施設に啓発用ポスターの掲示及び国連支援募金箱を設置し薬物乱用防止を訴えた。また、地域で開催される集会、会合等に参加し、啓発資材を配布した。

●青少年への啓発活動

5月31日に開催された県高校総体開会式会場において、「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕の掲示を行い来場者に対する啓発を行った。また、県内自動車学校等若者が多く集まる場所でポスターを掲示し、チラシを設置した。

熊本県

月 日	6月22日（30日）
開催場所	県内一円
活動主体	熊本県、熊本県薬物乱用対策推進本部、熊本県薬物乱用防止指導員連合協議会、ライオンズクラブ国際協会337―E地区、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動熊本県実行委員会、各市町村、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、（公社）熊本県医師会、（一社）熊本県歯科医師会、（公社）熊本県薬剤師会、（一社）熊本県医薬品登録販売者協会、（一



熊本県

従来からの事業として7月11日から7月28日にかけて開催された第101回全国高等学校野球選手権長崎県大会会場（長崎市、佐世保市）において、競技場内に「ダメ。ゼッタイ。」の横断幕を設置し、来場者に対する啓発を行った。

県内高等学校を通じて3年生全員に、大麻啓発のパンフレットの配布を行った。

活動状況	参加人員	社）熊本県医薬品配置協会、熊本県製薬協会、熊本県医薬品卸業協会、熊本県歯科用品商組合、日本薬局協励会熊本県支部、阿蘇製薬（株）、（株）再春館製薬所、リバテープ製薬（株）、KMバイオロジクス株式会社、（一社）化学及血清療法研究所、熊本県保護司会連合会、熊本県防犯協会連合会、熊本県少年警察ボランティア連絡協議会、熊本県社会教育委員連絡協議会、熊本県地域婦人会連絡協議会、熊本県更生保護女性連盟、日本ボーイスカウト熊本県連盟、ガールスカウト熊本県連盟、等
	540人	

活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 熊本市及び県下保健所管内の地区薬物乱用防止指導員協議会が中心となり、大型商業施設等において、小・中・高校、ボーイスカウト及びガールスカウト等のヤングボランティア、薬物乱用防止指導員、県職員、県警職員、教育委員会及び市町村職員が、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」を合い言葉に街頭キャンペーンを実施し、啓発パンフレット、啓発資材等の啓発資材を配布するとともに国連支援募金への協力を呼びかけた。 ② 地域団体等キャンペーン 熊本県薬物乱用防止対策本部本部長、市町村、薬局・医薬品販売業者、病院、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動後援団体、県警本部及び各警察署、中学校、高等学校、大学・高専、地域振興局、教育事務所、自衛隊駐屯地等の各種団体・機関において、ポスターの掲示による啓発及び国連支援募金への協力依頼を行った。
------	---



大分県

大分県

月 日	6月29日（6月22日、27日、30日、7月3日、7日にも実施）
開催場所	大分県内8地域 10カ所
活動主体	大分県及び大分県警察本部
参加人員	ボーイスカウト、ガールスカウト、高校生、大学生、薬物乱用防止指導員、ライオンズクラブ、薬業団体、大分県カラオケBOX協会、その他のボランティア団体 計600人
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 本キャンペーンは、県薬務室、各保健所等が県内八地域で、薬物乱用防止指導員、ボーイスカウト、ガールスカウト、ライオンズクラブ等のボランティア団体の協力を得て、盛大に行われた。 参加者は、「ダメ。ゼッタイ。」たすきを着用し、ポールペン、絆創膏、パンフレット等啓発資材を通行人に配布し、街頭啓発を行うとともに、国連支援募金への協力を呼びかけた。

特に、大分・由布地区では、大分県警察本部と共催で実施し、若者に対する啓発を盛り上げるため、ダメ。ゼッタイ。君のマスケットを用いて啓発を行った。また、ダメ。ゼッタイ。君の応援として大分県、大分県警察本部、大分税関支署のマスケットも参加し、大分県警察音楽隊の演奏と共に、啓発活動を大いに盛り上げた。

会場となった広場では、視聴覚教材等を登載した薬物乱用防止広報車「ハッピースマイル二十一」を用いた啓発や横断幕、のぼり、ポスター等による啓発も実施し、道行く人たちに「薬物乱用防止」をアピールした。

② 地域団体キャンペーン

参加を呼びかけた店舗等の店頭「ダメ。ゼッタイ。」ポスターの掲示と同募金箱を設置し、期間中交通量の多い大分市内の歩道橋二カ所に「ダメ。ゼッタイ。」普及運動横断幕を掲示し、啓発活動を行った。

宮崎県

月 日	6月29日
開催場所	宮崎市
活動主体	宮崎県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 宮崎県薬物乱用防止指導員協議会 宮崎レオクラブ、宮崎フェニックスレオクラブ、ガールスカウト、宮崎県カラオケボックス協会、宮崎市、宮崎県警、宮崎県
参加人員	計 約260名
活動状況	① 6・26ヤング街頭キャンペーン 県庁前にて出発式を行い、高校生4名が厚生労働大臣メッセージを代読した。 続いて、参加者全員が啓発用タスキを着用し、横

断幕とのぼり旗を持ち「薬物乱用は、ダメ。ゼッタイ。」と呼びかけながら、県庁前から繁華街デパート前までの約1kmをパレードした。

その後、繁華街デパート前を中心にパンフレット等の啓発資料の配布と国連支援募金活動を実施した。

② 地域団体キャンペーン
関係団体等による国連支援募金活動の実施



宮崎県

鹿児島県

活動主体	開催場所	月 日
県、県薬物乱用対策推進地方本部、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動県実行委員会、各薬物乱用防止指導員地区協議会、ボーイスカウト、ガールスカウト、中・	鹿児島市、指宿・加世田・伊集院・川薩・出水・大口・始良・志布志・鹿屋・西之表・屋久島・名瀬及び徳之島保健所地区 計14地区	6月8日、22日、29日、7月6日、11日、13日、17日

参加人員
高校生、その他関係機関・団体
1,098人（うちヤングボランティア431人）

活動状況

① 6・26ヤング街頭キャンペーン

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動月間中、県下、14地区の薬物乱用防止指導員地区協議会が中心となり、中・高校生等及び関係機関・団体の協力を得て、繁華街や大規模店舗等において、のぼり、横断幕を設置し、啓発用パンフレット等を通行人に配布して、薬物乱用防止を呼びかけるとともに、国連支援募金活動を実施した。

また、県広報番組においてキャンペーンの様子を放送し、本運動の周知及び普及啓発を図った。

② 地域団体キャンペーン

後援団体等の協力を得て、募金箱の設置やポスターの掲示を行うとともに、各種研修等において啓発活動を展開した。

沖縄県

活動主体	開催場所	月 日
県、県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会、薬物乱用防止協会支部、中学生、高校生、ガールスカウト、ボーイスカウト、その他関係機関・団体	那覇市、名護市、北谷町、糸満市、宮古島市、石垣市 計6ヶ所	6月22日
参加人員	375人	
活動状況	県内6ヶ所において、ヤングボランティア及び薬物乱用防止指導員等を中心にパンフレット等啓発資料を通行人に配布する街頭キャンペーンを実施するとともに、国連支援街頭募金を実施した。	

期間中、街頭キャンペーン以外に次のことを実施した。

① 地域団体キャンペーン

② 国連支援募金

③ 県の広報機関を利用した普及啓発（電光広報塔による広報、県広報誌への掲載）

④ 市町村への協力呼びかけ（国連支援募金及びポスター等の掲示）

⑤ 県内各関係機関への普及・啓発依頼



鹿児島県



沖縄県

『ダメ。ゼッタイ。』普及運動」における街頭キャンペーン・厚生労働大臣メッセージ

今日、覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどの薬物の乱用が深刻な社会問題となっています。

これらの薬物は、一度でも手を出すと、自分の意思では止めることが極めて難しくなります。自らの体や心をむしばむだけでなく、家族や周りの人々の人生をも取り返しのつかないものにしてしまうため、絶対に使用してはいけません。

我が国では、大麻についての検挙人員が、昨年、三千五百人を超え、過去最高を更新しました。そのうち半数以上が十代及び二十代の若年層であり、深刻な問題となっています「大麻は害がない」といった誤った情報が拡散していますが、大麻は脳への悪影響が懸念され、その害悪は覚醒剤などの他の薬物と何ら変わりありません。

また覚醒剤についての押収量は、三年連続で一トンを超えていることから、大変憂慮すべき事態です。さらに、危険ドラッグについても、販売店舗は全滅させたものの、インターネットを利用した密売がされており、いまだその脅威は去っていません。

覚醒剤、大麻、危険ドラッグなどから自分自身を守るためには、どんな人から誘われても、きっぱりと断る勇気を持つことが何よりも大切です。皆様一人ひとりに「ダメ。ゼッタイ。」を合言葉に、薬物乱用防止の輪を大きく広げていただき、共に薬物乱用を許さない社会を作っていきましょう。

令和元年6月23日 厚生労働大臣 根本 匠



平成30年中の薬物情勢について

(平成 31 年 3 月警察庁組織犯罪対策部組織犯罪対策企画課公表資料「平成 30 年における組織犯罪の情勢」より抜粋)

平成 30 年における薬物情勢の特徴としては、以下のことが挙げられる。

- 薬物事犯検挙人員は近年横ばいが続く中、13,862 人と前年からわずかに増加した。
このうち、覚醒剤事犯検挙人員は、近年わずかな減少が続く中、30 年においても 9,868 人と引き続きわずかに減少し、1 万人を下回った。一方で、大麻事犯検挙人員は 3,578 人と若年層を中心に 26 年以降増加が続き、過去最多となった前年を大幅に更新しており、大麻事犯検挙人員の増加が薬物事犯検挙人員全体を押し上げた。
- 覚醒剤の密輸入事犯検挙件数は 127 件で、ほぼ前年並みであり、このうち航空機利用の携帯密輸についても 80 件とほぼ前年並みであった。
覚醒剤の密輸入押収量は 784.4 キログラムと減少したものの、覚醒剤の総押収量は 1,138.6 キログラムと前年よりわずかに増加し、3 年連続で 1,000 キログラムを超えた。
- 大麻栽培事犯の検挙件数は近年増加傾向にあるが、175 件と 3 年ぶりに減少し、大麻草押収量（本数）は 4,456 本と 2 年連続 1 万本を超えた 28 年、29 年から大幅に減少した。
- 危険ドラッグ事犯の検挙人員は 396 人と、前年に引き続き大幅に減少した。

上記のとおり、覚醒剤事犯検挙人員はわずかに減少しているものの、覚醒剤の密輸入事犯検挙件数は高止まりであり、覚醒剤の総押収量は 3 年連続で 1,000 キログラムを超えていることなどから、密輸・密売事犯の検挙を通じた薬物の供給網の遮断に向けた取締りを推進することとしている。また、大麻事犯検挙人員は前年に引き続いて過去最多を更新し、若年層を中心とした増加傾向が継続していることなどから、大麻事犯の取締りの強化及び大麻乱用防止に係る広報啓発活動を推進することとしている。

1 薬物事犯の検挙状況

薬物事犯の検挙人員は、近年横ばいで推移している中、13,862 人と前年からわずかに増加した。このうち暴力団構成員等の検挙人員は 5,457 人で、薬物事犯の検挙人員の 39.4% を占めているが、検挙人員・薬物事犯に占める割合とも減少傾向にある。外国人の検挙人員は近年増加傾向にあったところ、1,018 人と前年からわずかに減少したものの 1,000 人を超えるほぼ前年並みであり、薬物事犯の検挙人員の 7.3% を占めている。

〔薬物事犯別検挙件数及び検挙人員の推移〕

区分		年別	H26	H27	H28	H29	H30
覚醒剤事犯	検挙件数		15,355	15,980	15,219	14,325	14,135
	検挙人員		10,958	11,022	10,457	10,113	9,868
	暴力団構成員等		6,024	5,712	5,067	4,751	4,645
	構成比率 (%)		55.0	51.8	48.5	47.0	47.1
	外国人		595	591	605	706	632
	構成比率 (%)		5.4	5.4	5.8	7.0	6.4
大麻事犯	検挙件数		2,362	2,771	3,439	3,965	4,687
	検挙人員		1,761	2,101	2,536	3,008	3,578
	暴力団構成員等		484	591	649	742	762
	構成比率 (%)		27.5	28.1	25.6	24.7	21.3
	外国人		133	154	18.1	250	253
	構成比率 (%)		7.6	7.3	7.1	8.3	7.1
麻薬及び 向精神薬事犯	検挙件数		637	706	784	840	862
	MDMA 等合成麻薬		129	109	86	107	122
	コカイン		144	230	364	392	434
	ヘロイン		11	8	3	19	14
	その他		353	359	331	322	292
	検挙人員		378	398	412	409	415
	暴力団構成員等		108	80	65	69	50
	構成比率 (%)		28.6	20.1	15.8	16.9	12.0

		外国人	49	71	82	102	133
		構成比率 (%)	13.0	17.8	19.9	24.9	32.0
		MDMA 等合成麻薬	62	45	38	42	50
		暴力団構成員等	21	11	6	11	5
		構成比率 (%)	33.9	24.4	15.8	26.2	10.0
		外国人	6	6	7	5	18
		構成比率 (%)	9.7	13.3	18.4	11.9	36.0
		コカイン	61	86	142	177	197
		暴力団構成員等	14	14	34	38	36
		構成比率 (%)	23.0	16.3	23.9	21.5	18.3
		外国人	14	32	50	70	83
		構成比率 (%)	23.0	37.2	35.2	39.5	42.1
		ヘロイン	5	3	0	9	10
		暴力団構成員等	0	0	0	0	0
		構成比率 (%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		外国人	1	3	0	9	6
		構成比率 (%)	20.0	100.0	0.0	100.0	60.0
		その他	250	264	232	181	158
		暴力団構成員等	73	55	25	20	9
		構成比率 (%)	29.2	20.8	10.8	11.0	5.7
		外国人	28	30	25	18	26
		構成比率 (%)	11.2	11.4	10.8	9.9	16.5
あへん事犯	検挙件数		24	6	11	12	6
	検挙人員		24	3	6	12	1
	暴力団構成員等		1	0	0	0	0
	構成比率 (%)		4.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	外国人		1	1	0	0	0
	構成比率 (%)		4.2	33.3	0.0	0	0
合計	検挙件数		18,378	19,463	19,453	19,142	19,690
	検挙人員		13,121	13,524	13,411	13,542	13,862
	暴力団構成員等		6,617	6,383	5,781	5,562	5,457
	構成比率 (%)		50.4	47.2	43.1	41.1	39.4
	外国人		778	817	868	1,058	1,018
	構成比率 (%)		5.9	6.0	6.5	7.8	7.3

注1：本表の数値には、各薬物に係る麻薬特例法違反の検挙件数・人員の数値を含む。

注2：本表の薬物事犯は、覚醒剤事犯、大麻事犯、麻薬及び向精神薬事犯及びあへん事犯をいい、犯罪統計による。

覚醒剤事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の71.2%を占め、その割合は24年以降減少している一方で、大麻事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の25.8%を占め、その割合は25年以降増加している。

〔薬物事犯別検挙人員の構成比率の推移〕

区分 \ 年別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
覚醒剤事犯 (%)	78.0	82.5	86.1	86.0	84.2	83.5	81.5	78.0	74.7	71.2
大麻事犯 (%)	19.5	15.3	12.0	11.9	12.0	13.4	15.5	18.9	22.2	25.8
その他 (%)	2.5	2.2	1.9	2.1	3.8	3.1	3.0	3.1	3.1	3.0

2 主な薬物事犯の傾向、特徴

(1) 覚醒剤事犯

覚醒剤事犯の検挙人員は9,868人と、第三次覚醒剤乱用期のピークである9年以降、長期的にみて減少傾向にあり、昭和50年以来43年ぶりに1万人を下回った。

また、覚醒剤事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は4,645人と検挙人員の47.1%、外国人は632人と検挙人員の6.4%を占めている。

〔覚醒剤事犯検挙人員の推移〕

区別	年別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
覚醒剤事犯検挙人員		11,655	11,993	11,852	11,577	10,909	10,958	11,022	10,457	10,113	9,868
	暴力団構成員等	6,201	6,322	6,553	6,373	6,096	6,024	5,712	5,067	4,751	4,645
	構成比率（％）	53.2	52.7	55.3	55.0	55.9	55.0	51.8	48.5	47.0	47.1

ア 年齢層別の検挙状況

30年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が1.4人、20歳代が9.3人、30歳代が17.6人、40歳代が17.7人、50歳以上が5.5人であり、最も多い年齢層は40歳代、次いで30歳代となっている。

〔覚醒剤事犯年齢別検挙人員の推移〕

区分			年別	H26	H27	H28	H29	H30	
覚醒剤事犯	検挙人員			10,958	11,022	10,457	10,113	9,868	
	人口 10 万人当たりの検挙人員			10.7	10.7	10.4	9.9	9.7	
	年齢別	50 歳以上			2,486	2,324	2,353	2,347	2,615
		人口 10 万人当たりの検挙人員			5.2	4.9	5.0	4.9	5.5
		構成比率（％）			22.7	21.1	22.5	23.2	26.5
		40～49 歳			3,697	3,779	3,592	3,587	3,352
		人口 10 万人当たりの検挙人員			20.5	20.5	19.7	18.9	17.7
		構成比率（％）			33.7	34.3	34.4	35.5	34.0
		30～39 歳			3,301	3,383	3,089	2,862	2,642
		人口 10 万人当たりの検挙人員			19.8	21.0	20.0	18.6	17.6
		構成比率（％）			30.1	30.7	29.5	28.3	26.8
		20～29 歳			1,382	1,417	1,287	1,226	1,163
		人口 10 万人当たりの検挙人員			10.6	11.0	10.2	9.8	9.3
		構成比率（％）			12.6	12.9	12.3	12.1	11.8
		20 歳未満			92	119	136	91	96
		人口 10 万人当たりの検挙人員			1.3	1.7	1.9	1.3	1.4
		構成比率（％）			0.8	1.1	1.3	0.9	1.0
			うち中学生		2	1	7	0	3
			うち高校生		11	14	18	8	13
			大学生			11	18	8	19

注1：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注2：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

イ 再犯者率

覚醒剤事犯の再犯者率は、19年以降12年連続で増加しており、30年は66.1%となっている。

〔覚醒剤事犯の再犯者率の推移〕

区分	年別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
覚醒剤事犯	検挙人員	11,655	11,993	11,852	11,577	10,909	10,958	11,022	10,457	10,113	9,868
	再犯者数	6,765	7,114	7,038	7,116	6,899	7,067	7,147	6,804	6,647	6,521
	再犯者率（％）	58.0	59.3	59.4	61.5	63.2	64.5	64.8	65.1	65.7	66.1
	年齢別										
	50歳以上	82.1	81.2	81.5	81.3	79.8	80.2	83.1	82.3	82.4	82.6
	40～49歳	69.6	72.2	70.4	70.0	69.7	71.2	72.2	72.1	72.1	71.8
	30～39歳	55.3	56.2	56.1	56.8	58.9	57.3	57.9	56.9	58.5	57.9
	20～29歳	35.8	35.3	32.9	37.6	39.0	39.2	36.0	38.9	35.6	35.4
	20歳未満	18.7	12.7	12.0	14.9	15.3	5.4	16.0	12.5	16.5	13.5

ウ 違反態様別の検挙状況

違反態様別でみると、使用事犯が5,678人、所持事犯が3,227人、譲渡事犯が420人、譲受事犯が156人、密輸入事犯が157人となっており、使用事犯及び所持事犯で検挙人員の90.2%を占めている。

エ 覚醒剤事犯の主な特徴

覚醒剤事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の71.2%を占めており、依然として我が国の薬物対策における最重要課題となっている。

その主な特徴としては、暴力団構成員等が検挙人員の約半数を占めていることや、30歳代及び40歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ他の年齢層に比べて多いことが挙げられる。

また、再犯率が他の薬物に比べて高いことから、覚醒剤がとりわけ強い依存性を有しており、一旦乱用が開始されてしまうと継続的な乱用に陥る傾向があることがうかがわれる。

(2) 大麻事犯

大麻事犯の検挙人員は3,578人と、26年以降増加が続き、過去最多となった前年を大幅に更新した。

また、大麻事犯の検挙人員のうち、暴力団構成員等は762人と検挙人員の21.3%、外国人は253人と検挙人員の7.1%を占めている。

ア 年齢層別の検挙状況

人口10万人当たりの検挙人員でみると、近年、50歳以上においては、横ばいで推移している一方、その他の年齢層においては増加傾向にあり、特に若年層による増加が顕著である。

30年の人口10万人当たりの検挙人員は、20歳未満が6.0人、20歳代が122人、30歳代が7.3人、10歳代が2.0人、50歳以上が0.3人であり、最も多い年齢層は20歳代、次いで30歳代となっている。

〔大麻事犯年齢別検挙人員の推移〕

区分			年別	H26	H27	H28	H29	H30
大麻事犯	検挙人員			1,761	2,101	2,536	3,008	3,578
	人口 10 万人当たりの検挙人員			1.7	2.1	2.5	3.0	3.5
	年齢別	50 歳以上		88	104	113	152	157
		人口 10 万人当たりの検挙人員		0.2	0.2	0.2	0.3	0.3
		構成比率（％）		5.0	5.0	4.5	5.1	4.4
		40～49 歳		257	263	326	347	370
		人口 10 万人当たりの検挙人員		1.4	1.4	1.8	1.8	2.0
		構成比率（％）		14.6	12.5	12.9	11.5	10.3
		30～39 歳		678	700	899	1,038	1,101
		人口 10 万人当たりの検挙人員		4.1	4.3	5.8	6.8	7.3
		構成比率（％）		38.5	33.3	35.4	34.5	30.8
		20～29 歳		658	890	988	1,174	1,521
		人口 10 万人当たりの検挙人員		5.0	6.9	7.9	9.4	12.2
		構成比率（％）		37.4	42.4	39.0	39.0	42.5
		20 歳未満		80	144	210	297	429
		人口 10 万人当たりの検挙人員		1.1	2.0	3.0	4.1	6.0
		構成比率（％）		4.5	6.9	8.3	9.9	12.0
			うち中学生		3	3	2	2
うち高校生			18	24	32	53	74	

	大学生	27	31	40	55	100
--	-----	----	----	----	----	-----

注1：算出に用いた人口は、各前年の総務省統計資料「10月1日現在人口推計」又は「国勢調査結果」による。

注2：20歳未満の人口10万人当たりの検挙人員は14歳から19歳までの人口を基に、50歳以上の人口10万人当たりの検挙人員は50歳から79歳までの人口を基にそれぞれ算出。

イ 初犯者率

大麻事犯の初犯者率は76.6%と、近年の横ばい傾向が継続している。

〔大麻事犯の初犯者率の推移〕

区分		年別	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
大麻事犯	検挙人員		2,920	2,216	1,648	1,603	1,555	1,761	2,101	2,536	3,008	3,578
	初犯者数		2,475	1,803	1,323	1,292	1,208	1,385	1,613	1,962	2,294	2,741
	初犯者率（%）		84.8	81.4	80.3	80.6	77.7	78.6	76.8	77.4	76.3	76.6
	年齢別	50歳以上	63.2	65.5	62.7	62.0	46.3	71.6	57.7	66.4	60.5	64.3
		40～49歳	78.1	64.2	74.1	71.0	71.1	69.3	66.5	70.6	66.0	64.9
		30～39歳	82.0	82.0	77.8	79.2	78.0	79.4	75.1	74.6	70.9	69.7
		20～29歳	88.0	84.0	83.6	85.0	81.5	81.0	80.9	80.5	82.6	81.2
		20歳未満	87.7	89.6	91.4	93.9	93.2	91.3	91.7	91.0	89.9	92.8

ウ 違反態様別の検挙状況

違反態様別でみると、所持事犯が2,928人、譲渡事犯が201人、譲受事犯が138人、密輸入事犯が63人、栽培班犯が152人となっており、所持事犯が検挙人員の81.8%を占めている。また、栽培事犯が検挙人員に占める割合は小さいものの、近年増加傾向にある。

〔大麻栽培事犯の検挙状況の推移〕

区分	年別	H26	H27	H28	H29	H30
検挙件数		130	115	144	191	175
検挙人員		116	107	116	138	152

エ 大麻事犯の主な特徴

大麻事犯の検挙人員は、薬物事犯の検挙人員の25.8%を占めており、その割合は覚醒剤事犯に次いで多くなっている。

その主な特徴としては、初犯者率が高いことのほか、特に20歳未満、20歳代の人口10万人当たりの検挙人員がそれぞれ大幅に増加しており、若年層による乱用傾向が増大していることが挙げられる。

3 薬物の押収状況

薬物種類別でみると、覚醒剤が1,138.6キログラムと増加し、3年連続で1,000キログラムを超えた。

乾燥大麻は海上貨物の利用による大量密輸入事犯の検挙に伴い、280.4キログラムと前年から大幅に増加した。大麻樹脂は2.9キログラム、大麻草は4,456本とそれぞれ前年から減少した。

〔薬物種類別押収量の推移〕

種類		年別	H26	H27	H28	H29	H30
覚醒剤	(kg)		487.5	429.7	1,495.4	1,118.1	1,138.6
	(錠)		51	741	138	5	261
乾燥大麻	(kg)		165.0	101.0	133.1	176.3	280.4
大麻樹脂	(kg)		36.7	3.9	0.9	20.7	2.9
大麻草	(本)		5,195	3,355	13,660	17,324	4,456
	(kg)		120.1	87.6	42.3	67.5	23.0
合成麻薬	(錠)		479	1,055	5,021	3,181	12,303
MDMA	(錠)		471	981	5,019	3,109	12,274
コカイン	(kg)		2.2	18.5	18.3	9.6	42.0
ヘロイン	(kg)		0.0	2.0	0.0	70.3	0.0
あへん	(kg)		0.2	0.0	0.7	0.0	0.0

注1：覚醒剤の押収量（kg）は、錠剤型覚醒剤を含まない。
 注2：大麻の押収量（kg）は、本数として計上できない形状のものを示す。
 注3：合成麻薬の押収量は、覚醒剤と MDMA 等の混合錠剤を含む。

4 危険ドラッグ事犯の検挙状況

（1）危険ドラッグ事犯の検挙状況

危険ドラッグ[※]事犯の検挙状況は383事件、396人と前年に引き続き大幅に減少した。

適用法令別で見ると、指定薬物に係る医薬品医療機器法違反、麻薬及び向精神薬取締法違反は、いずれも前年に引き続き減少した。

また、危険ドラッグ事犯のうち、暴力団構成員等による事犯は42事件、42人、外国人による事犯は43事件、48人、少年による事犯は1事件、1人となっている。

※ 危険ドラッグとは、規制薬物（覚醒剤、大麻、麻薬、向精神薬、あへん及びけしがらをいう。以下同じ。）又は指定薬物（医薬品医療機器法第2条第15項に規定する指定薬物をいう。以下同じ。）に化学構造を似せて作られ、これらと同様の薬理作用を有する物品をいい、規制薬物及び指定薬物を含有しない物品であることを標ぼうしながら規制薬物又は指定薬物を含有する物品を含む。

※ 危険ドラッグ事犯の検挙事件数及び人員は、実務統計（警察庁において調査等により集計する数値）による。

〔危険ドラッグに係る適用法令別検挙状況の推移〕

区分	年別		H26		H27		H28		H29		H30	
	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員	事件数	人員
指定薬物に係る医薬品医療機器法違反	401	492	895	960	713	758	555	578	336	346		
乱用者による単純所持・使用等	312	326	671	695	495	519	390	404	231	235		
麻薬及び向精神薬取締法違反	80	98	133	148	115	126	56	56	45	48		
交通関係法令違反	157	160	36	36	8	7	1	1	1	1		
その他法令違反	68	90	36	52	28	29	16	16	1	1		
合計	706	840	1,100	1,196	864	920	628	651	383	396		

注1：同一被疑者で関連する余罪を検挙した場合でも、一つの事件として計上。

注2：複数の罪で検挙されている場合、主たる罪・人員として計上。

注3：指定薬物に係る医薬品医療機器法違反は、危険ドラッグから指定薬物が検出された場合の検挙をいう。

注4：麻薬及び向精神薬取締法違反は、危険ドラッグから麻薬が検出された場合の検挙をいう。

注5：交通関係法令違反は、刑法（危険運転致死傷、自動車運転過失致死傷）、自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律違反（危険運転致死傷、過失運転致死傷）、道路交通法違反をいう。

注6：適用法令（罪名）は、検挙時点を基準として計上（交通関係法令違反の中には、送致時等の罪名変更のものあり）。

注7：乱用者による単純所持・使用等とは、26年4月1日から規制が新設された指定薬物の単純所持、使用、購入、譲受けによる違反態様のうち、販売目的等により検挙された供給者側を除くものをいう。

注8：交通関係法令違反及びその他法令違反には、規制薬物及び指定薬物が検出されなかった事件を含む。

注9：26年から指定薬物以外の医薬品医療機器法違反は、その他法令違反に計上。

(2) 危険ドラッグ乱用者の検挙状況

危険ドラッグ事犯のうち、危険ドラッグ乱用者※の検挙人員は 368 人（構成比率 92.9%）となっている。

※ 危険ドラッグ乱用者とは、危険ドラッグ事犯検挙人員のうち、危険ドラッグを販売するなどにより検挙された供給者側の検挙を除いたものをいう。

ア 年齢層別の検挙状況

年齢層別の構成比率をみると、20 歳代及び 30 歳代の占める割合の減少に伴い、40 歳代及び 50 歳以上の占める割合が増加傾向となっている。

〔危険ドラッグ乱用者の年齢別検挙人員の推移〕

区分			年別	H27	H28	H29	H30
危険ドラッグ乱用者	検挙人員			966	838	605	368
	年齢層別	50 歳以上		75	125	105	67
		構成比率 (%)		7.8	14.9	17.4	18.2
		40～49 歳		236	293	208	135
		構成比率 (%)		24.4	35.0	34.4	36.7
		30～39 歳		330	261	196	109
		構成比率 (%)		34.2	31.1	32.4	29.6
		20～29 歳		297	145	94	56
		構成比率 (%)		30.7	17.3	15.5	15.2
		20 歳未満		28	14	2	1
		構成比率 (%)		2.9	1.7	0.3	0.3

イ 薬物経験別の検挙状況

薬物経験別でみると、薬物犯罪の初犯者が 209 人（構成比率 56.8%）、薬物犯罪の再犯者が 159 人（同 43.2%）となっている。

ウ 危険ドラッグの入手状況

入手先別でみると、インターネットを利用して危険ドラッグを入手した者の割合が 45.1%と最も高い。

〔危険ドラッグ乱用者の年齢別検挙人員の推移〕

区分			年別	H27	H28	H29	H30
危険ドラッグ乱用者	検挙人員			966	833	605	368
	入手先別	街頭店舗		265	130	84	33
		構成比率 (%)		27.4	15.5	13.9	9.0
		インターネット		336	353	227	166
		構成比率 (%)		34.8	42.1	37.5	45.1
		友人・知人		110	93	77	45
		構成比率 (%)		11.4	11.1	12.7	12.2
		密売人		109	71	55	32
		構成比率 (%)		11.3	8.5	9.1	8.7
		その他・不明		146	191	162	92
		構成比率 (%)		15.1	22.8	26.8	25.0

エ 危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数

危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数は 1 人と減少傾向にある。

〔危険ドラッグの使用が原因と疑われる死者数の推移〕

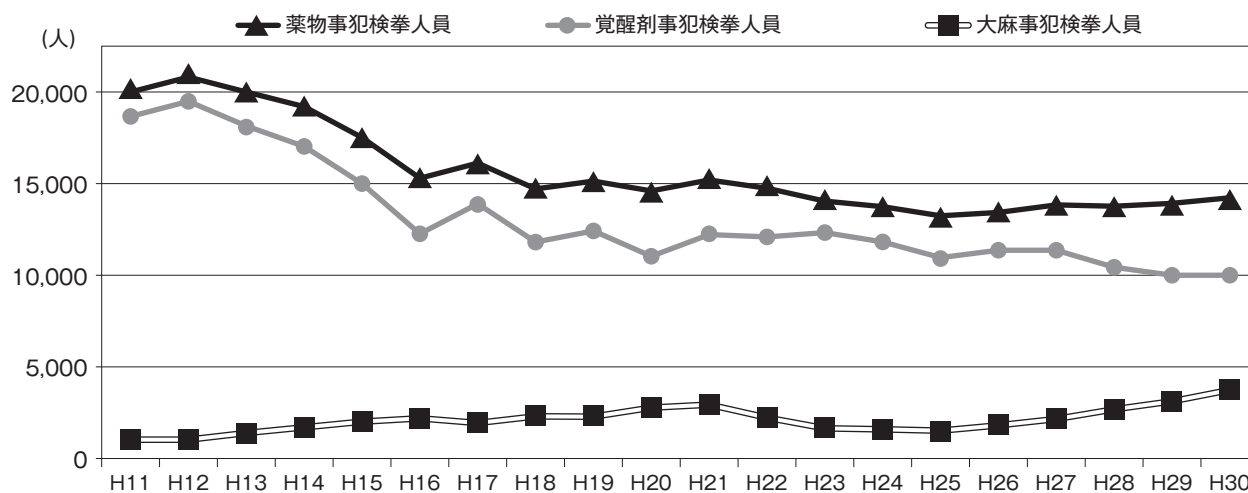
区分	年別	H27	H28	H29	H30
死者数		11	6	3	1

注 1：30 年 12 月末現在で警察庁に報告があったものを計上。

注 2：発生日ではなく、認知日を基準として計上。

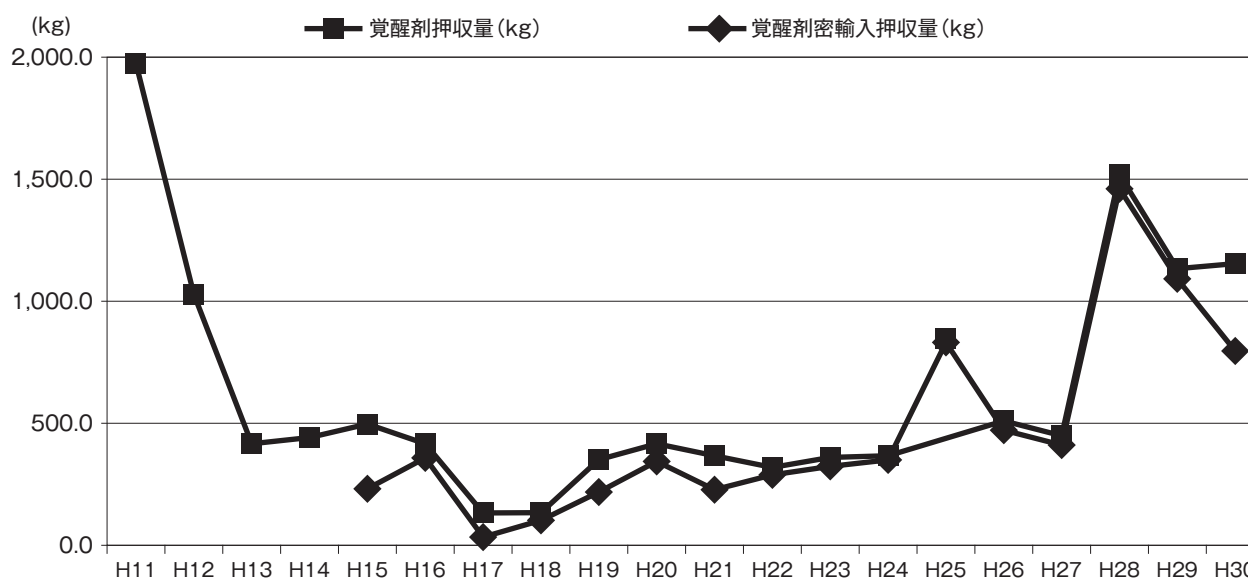
● 参考資料

(1) 薬物事犯検挙状況の推移 (11～30 年)



区分	年別	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
薬物事犯検挙人員		19,764	20,382	19,647	18,823	17,171	15,048	15,803	14,440	14,790	14,288	14,947	14,529	13,768	13,466	12,951	13,121	13,524	13,411	13,542	13,862
覚醒剤事犯検挙人員		18,285	18,942	17,912	16,771	14,624	12,220	13,346	11,606	12,009	11,025	11,655	11,993	11,852	11,577	10,909	10,958	11,022	10,457	10,113	9,868
大麻事犯検挙人員		1,124	1,151	1,450	1,748	2,032	2,209	1,941	2,288	2,271	2,758	2,920	2,216	1,648	1,603	1,555	1,761	2,101	2,536	3,008	3,578

(2) 覚醒剤押収量の推移 (11～30 年)



区分	年別	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
覚醒剤押収量 (kg)		1,975.9	1,026.9	406.1	437.0	486.8	406.1	118.9	126.8	339.3	397.5	356.3	305.5	338.8	348.5	831.9	487.5	429.7	1,495.4	1,118.1	1,138.6
覚醒剤密輸入押収量 (kg)		-	-	-	243.5	223.8	350.0	32.2	106.8	213.1	324.3	217.9	275.5	310.7	332.2	816.1	448.0	394.6	1,428.4	1,073.4	784.4

★トピックス

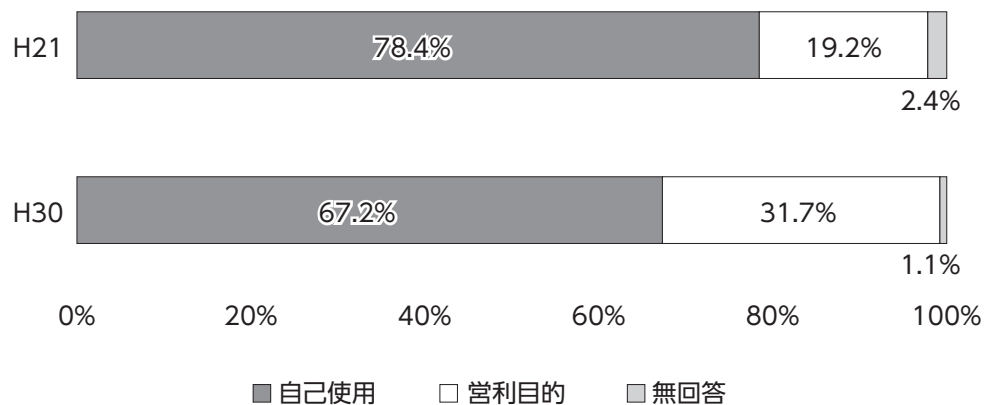
大麻栽培事犯の実態に関する調査結果

警察庁では、大麻栽培事犯の実態を把握するため、30年1月1日から同年10月31日までの間に大麻取締法違反の違反態様が栽培で検挙された者を対象に調査を行い、都道府県警察から回答を得た178人分のデータを集約した。これを、21年上半期に実施した同様の調査（回答159人分）と比較した結果は次のとおりであった。

○ 大麻栽培の目的

大麻栽培の目的については、「自己使用」が67.2%、「営利目的」が31.7%であり、「自己使用」が半数以上を占めているが、21年調査と比較すると、「営利目的」が12.5ポイント増加した。

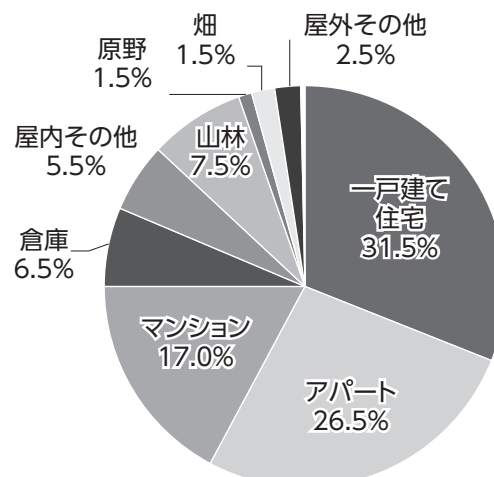
図1：栽培目的（H21とH30の比較）（複数回答）



○ 大麻栽培の場所、規模

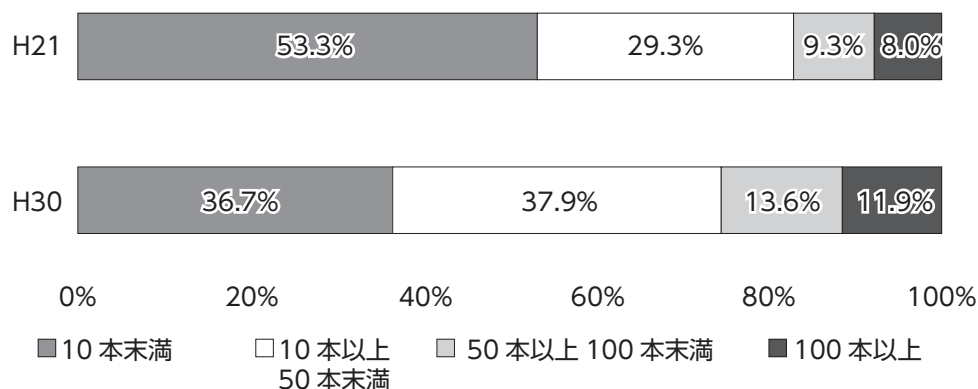
大麻栽培の場所は、屋内栽培が87.0%、屋外栽培は13.0%と屋内栽培が圧倒的に多く、「一戸建て住宅」、「アパート」、「マンション」が全体の75.0%を占め、住居を利用した大麻栽培が圧倒的に多い。屋内栽培の中には、建物内全てを栽培場所とする大規模な栽培も含まれていた。

図2：栽培場所（H30）（複数回答）



また、栽培の規模は「50 本以上 100 本未満」、「100 本以上」が 25.5%であり、21 年調査より 82 ポイント増加し、「10 本未満」が 16.6 ポイント減少していることから、栽培規模が大きくなっていることがうかがわれ、この結果は「営利目的」が増えていることとも合致する。

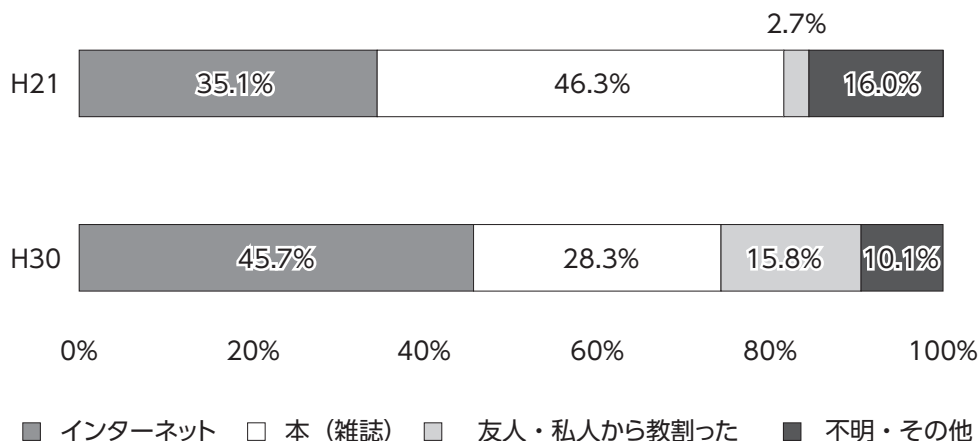
図 3：栽培規模（H21 と H30 の比較）



○ 大麻栽培の方法の習得経緯

栽培方法を習得した経緯については、21 年調査と比較すると、「本（雑誌）」が減少して、「インターネット」が 45.7%と最も比率が高くなり、「友人・知人から教わった」も 13.1 ポイント増加した。

図4：栽培方法の習得経緯（H21 と H30 の比較）（複数回答）



21 年の調査では、自己使用を目的とする小規模な大麻栽培を行っている者が多数を占めていたが、今回の調査では、営利目的で大規模に栽培する者の割合が増加していることが認められた。

同じ調査では、営利目的の 100 本以上の大規模な大麻栽培は暴力団構成員等に関わるものが 7 割以上を占めていることが判明しており、組織的な大麻栽培が暴力団組織の資金源となっていることがうかがわれる。

また、インターネットで容易に大麻栽培に関する情報を入手できる環境があり、大麻乱用者の裾野の広がりが懸念されることから、今後、大麻栽培事犯に対する取締り及び乱用防止の広報啓発活動をより一層強化する必要がある。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動

薬物乱用防止キャンペーンと国連支援募金運動を全国各地で実施

～6月20日（木）から全国で開催されました～



厚生労働省、都道府県、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターでは、内閣府や警察庁をはじめとする関係機関や後援団体に協力を呼びかけ、「6.26 ヤング街頭キャンペーン」や「都民の集い」、「地域団体キャンペーン」など、官民一体となった薬物乱用防止普及運動を積極的に展開しました。

今年は 大場美奈さん（SKE48）が「ダメ。ゼッタイ。」を呼び掛けました！

人気アイドルグループSKE48 チーム KII のメンバーでリーダーでもある大場美奈さんが、薬物乱用の怖さ、大麻の乱用拡大への注意を訴え、全国でキャンペーンを盛り上げました。

【キャスター大場美奈の大麻注意報！】



【特別研究員 大場美奈からの質問】



動画はホームページでご覧いただけます (<http://www.dapc.or.jp/2019fukyu/>)

東京ドームオーロラビジョンをはじめ、Jリーグ開催会場や各都道府県等の街頭ビジョンで放映されました



ホームページリニューアルのお知らせ



※画面は開発中の為変更される場合があります

- ①薬物乱用防止領域の正しい知識の普及と規範意識向上に関する情報
- ②薬物乱用防止活動に関する最新の情報発信と啓発活動のための各種資料を格納
- ③財団の活動報告や主催・後援する各事業の情報

リニューアルにあたりご利用いただける資料の充実や、講師の方々とのコミュニケーションの円滑化を図り、より一層薬物乱用防止活動の支援体制を充実させて参ります。

啓発用DVD No52「大麻警報発令中！ ～アイメッセージで断ろう～」 制作中



今回は僕たちが
大麻の疑問を
調べます

乱用が拡大している大麻についてその危険性・有害性を分かり易く伝えながら、それでもなぜ使用してしまうのか、どう断ればいいのか、その対応と対策について具体的に提示します。

出演：「ダメ。ゼッタイ。」君「ダメ。くま」君（協力：東京都）
国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 嶋根卓也先生

ご 寄 付 団 体 及 び 賛 助 会 員

2019年2月6日から2019年8月2日までに、当センターにご寄附いただいた団体及びご入会いただいた賛助会員は次のとおりです。ご協力ありがとうございました。

〔ご寄附団体・個人〕

(一財) 東京都警察懇話会 様 平 方 裕 久 様

〔法人賛助会員〕

(株) エ ス エ ス 製 薬 様 (株) リンク・インタラック 様
(株) 豊 島 印 刷 様 学 校 法 人 関 西 大 学 様
丸 石 製 薬 株 式 会 社 様 UUUM 株 式 会 社 様

〔個人賛助会員〕

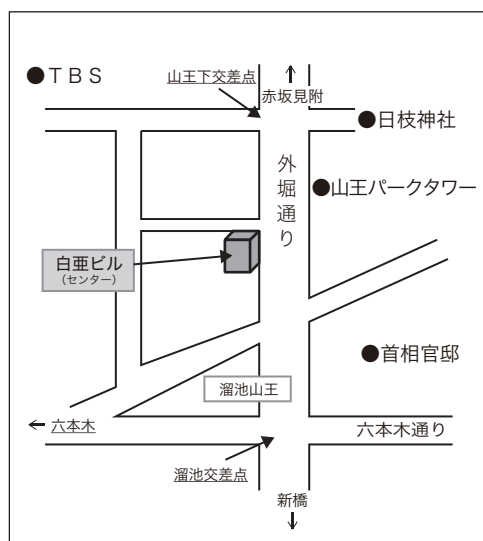
古木 光義 様 (継続)	古瀬 智之 様 (継続)	寺田 義和 様 (継続)	碓野 孝之 様 (継続)
伊藤 寛 様 (継続)	小山 功男 様 (継続)	櫻井 秀男 様 (継続)	澤田 宏 様 (継続)
中嶋 敏次 様 (継続)	中村 楯夫 様 (継続)	野々 晴久 様 (継続)	原 恒道 様 (継続)
山名 純一 様 (継続)	山田 順子 様 (継続)	石井 明 様 (継続)	佐藤 精一郎様 (継続)
河野 利光 様 (継続)	千葉 信雄 様 (継続)	池田 冬美 様 (継続)	石井 征二 様 (継続)
稲荷 恭三 様 (継続)	小清水 征次様 (継続)	中村 松太郎様 (継続)	松石 高之 様 (継続)
丸井 一弘 様 (継続)	田口 守 様 (継続)	館 親光 様 (継続)	神垣 鎮 様 (継続)
栗田 勝治 様 (継続)	高瀬 幹夫 様 (継続)	中本 幾司 様 (継続)	村島 吉豊 様 (継続)
山地 義夫 様 (継続)	齊藤 勲 様 (継続)	山田 松三郎様 (継続)	荒木 貞雄 様 (継続)
杉原 省吾 様 (継続)	村松 滝夫 様 (継続)	山本 章 様 (継続)	吉川 研司 様 (継続)
矢口 博行 様 (継続)	大屋 博 様 (継続)	今井 啓祐 様 (継続)	神谷 久子 様 (継続)
森 和弘 様 (継続)	清水 義勝 様 (継続)	清水 享 様 (継続)	永浜 静江 様 (継続)
スライ富士子様 (継続)	北川 けい子様 (継続)	篠 順三 様 (継続)	児玉 金之助様 (継続)
西山 孟夫 様 (継続)	和田 義広 様 (継続)	山本 稔 様 (継続)	福田 将己 様 (継続)
山崎 功 様 (継続)			



公益財団法人

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-4-1 (白亜ビル 9F)
TEL.03 (5544) 8436~7 FAX.03 (5544) 8473
ホームページアドレス <http://www.dapc.or.jp>



大場美奈さん（SKE48） が渋谷・原宿から 「ダメ。ゼッタイ。」を熱く、応援中！

（2019年10月まで）

渋谷駅前、原宿神宮前交差点に設置された大型ビジョンにて連日「ダメ。ゼッタイ。普及運動」をPR！



渋谷・ハチ公前



（毎時 00 分 15 秒～ / 毎時 30 分 15 秒～） 原宿・表参道 （毎時 05 分 15 秒～ / 毎時 35 分 15 秒～）

協力：株式会社パス・コミュニケーションズ

介護付有料老人ホームと在宅福祉のご案内です。

八王子市暁町



●シルバーレジ八王子

直下型地震にも対応
安心の免震構造
●シルバーレジ日野東館



多摩モノレール
甲州街道駅徒歩1分！！
●シルバーレジ日野



八王子市宮下町

●シルバーレジ八王子西



八王子に隣接
救急指定右田病院

日野・日野東館に隣接
康明会
ホームケアクリニック

在宅福祉部
●居宅介護支援事業所
シルバーレジいちょうの里
●訪問介護事業所
シルバーレジいちょうの杜
●セカンドライフ応援倶楽部
シルバーレジいちょうの実



「ゆったりと安心の毎日」をお届けしています。

シルバーレジ

パンフレットのご請求は

0120-19-0432

ホームページ シルバーレジ 検索

株式会社シルバーレジ 代表取締役会長 石井 征二（八王子陵東LC）

啓発資材順次改訂中



2019年7月より順次改定、詳しくはホームページ「啓発資材のご案内」からご覧ください。

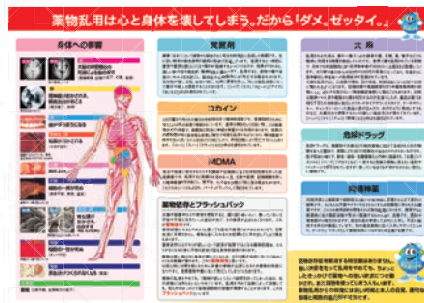
お問い合わせ

<http://www.dapc.or.jp/>

TEL 03-5544-8436

FAX 03-5544-8473

【改訂版】啓発用リーフレット



薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」であること、それは同時に「愛する自分を大切に」することでもあること、表紙デザインを一新しました。中面では薬物のテキストを全面的に見直し、大麻の写真を追加、最後のメッセージでは周囲の見守りや協力が欠かせないことを伝えています。より多くの幅広い年齢層への理解と啓発にご活用ください。

【改訂版】薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」愛する自分を大切に



主に小学校高学年を対象にした薬物乱用防止教室の教材、副読本としてご活用いただけます。ストーリー展開を現状に即した内容に加筆修正しました。学習のページ(18-19P)では、大麻について新たな使用形態や乱用実態、意識の変化などを解説しています。和文英訳を削除して文字の大きさや間隔を調整しました。

【改訂版】「ダメ。ゼッタイ。」下敷き



表面：乱用される主な薬物を脳に与える3作用別に分類、1回の使用でも乱用になることを伝えます。下段は特に「大麻」について説明しています。

裏面：薬物が心身へ与える影響を人体イラストを使って解説、日頃の判断力の大切さ、遭遇した場合の対応(はっきり断る、相談する)を伝えます。

コンパクト乱用薬物標本

好評発売中!



軽量でコンパクト、耐久性と持ち運びに優れた薬物標本です。

乱用される代表的な薬物に絞り、その使用形態や形状を模造標本に。軽量でコンパクトなアルミケースに収納、持ち運びが容易で、耐久性にも優れています。それぞれの薬物が規制されている法律、刑罰の解説付き。